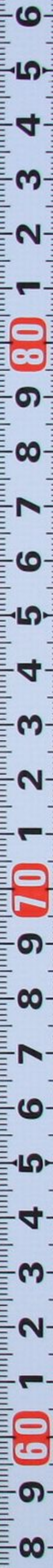




江戸名所圖會

十四



根津権現社 根津権現社
二修法堂 二修法堂
妙林寺 妙林寺

同赤不動堂 同赤不動堂
根津権現舊地 根津権現舊地
駒込大観音 駒込大観音
富士法堂 富士法堂

六月朔日富士の巻 六月朔日富士の巻
田畑子樂寺 田畑子樂寺
神明宮 神明宮
八幡宮 八幡宮

圓勝寺 圓勝寺
深井西福寺 深井西福寺
平塚明神社 平塚明神社
西谷五疊寺 西谷五疊寺

白鬚明神社 白鬚明神社
昌林寺 昌林寺
同合戦の巻 同合戦の巻
同東由の巻 同東由の巻

飛鳥山 飛鳥山
音吉川 音吉川
同新酒亭の巻 同新酒亭の巻
犬追物 上覧の地 犬追物 上覧の地

王子権現社 王子権現社
平塚城跡 平塚城跡
装束自衣裳櫃 装束自衣裳櫃
短冊前舊跡 短冊前舊跡

七月祭礼の巻 七月祭礼の巻
王子権現社 王子権現社
石井井川 石井井川
花法祭の巻 花法祭の巻

全輪寺 全輪寺
十八講の巻 十八講の巻
泉流遊 泉流遊
除夜祝火の巻 除夜祝火の巻

全剎寺 全剎寺
遊不動尊 遊不動尊
赤羽山八幡文 赤羽山八幡文
松橋夜賊天 松橋夜賊天

左邊入及新堂
右田乃津富士奉法堂の巻
川口波 川口波
稲付静徳寺 稲付静徳寺

川口若光寺 川口若光寺

梶原塚 梶原塚

紀州明林社 紀州明林社

渦田の園 渦田の園

清光寺 清光寺

地蔵堂 地蔵堂

豊島の驛 豊島の驛

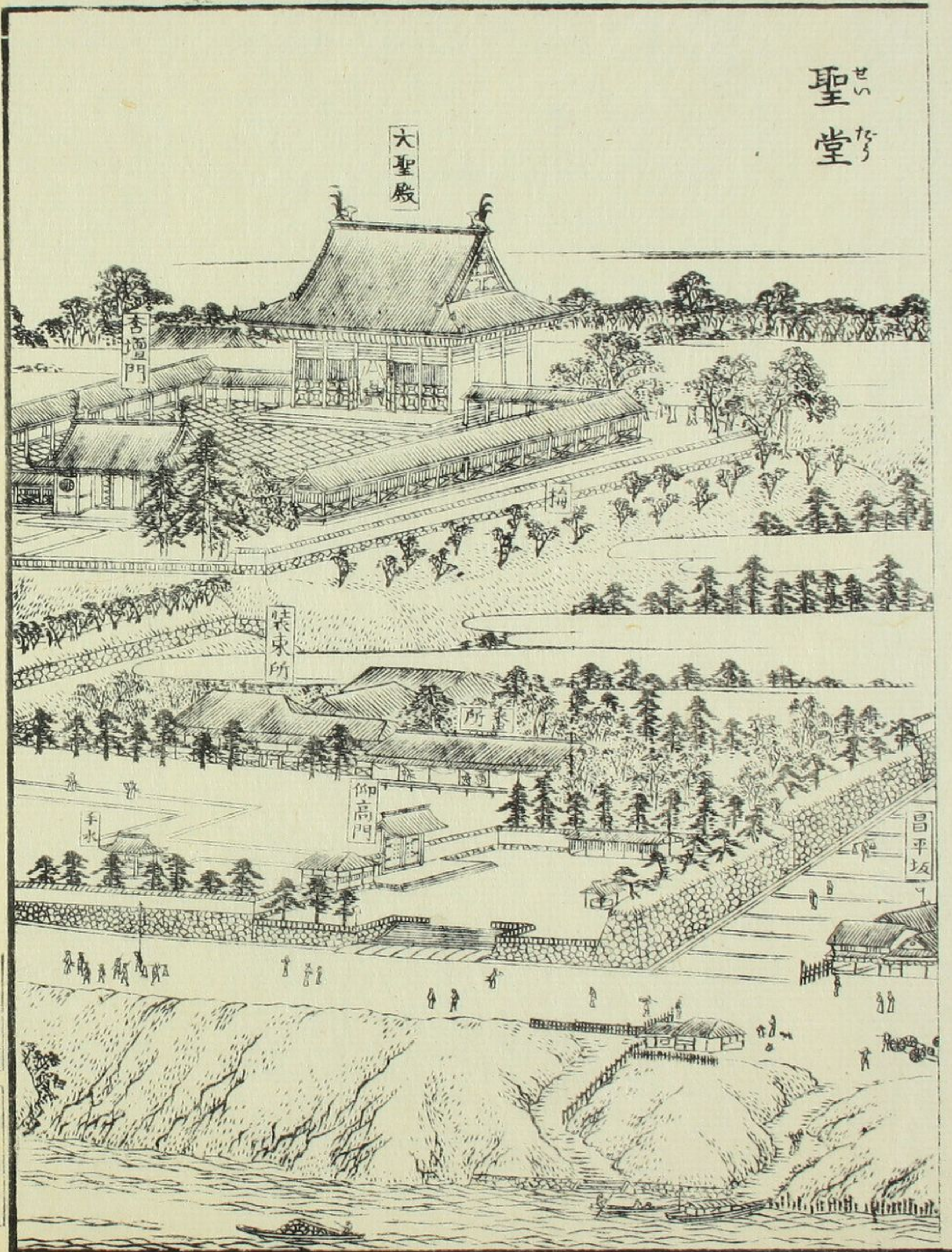
豊源康家清光之墓 豊源康家清光之墓

若宮八幡宮 若宮八幡宮

石井寺 石井寺

豊島 豊島

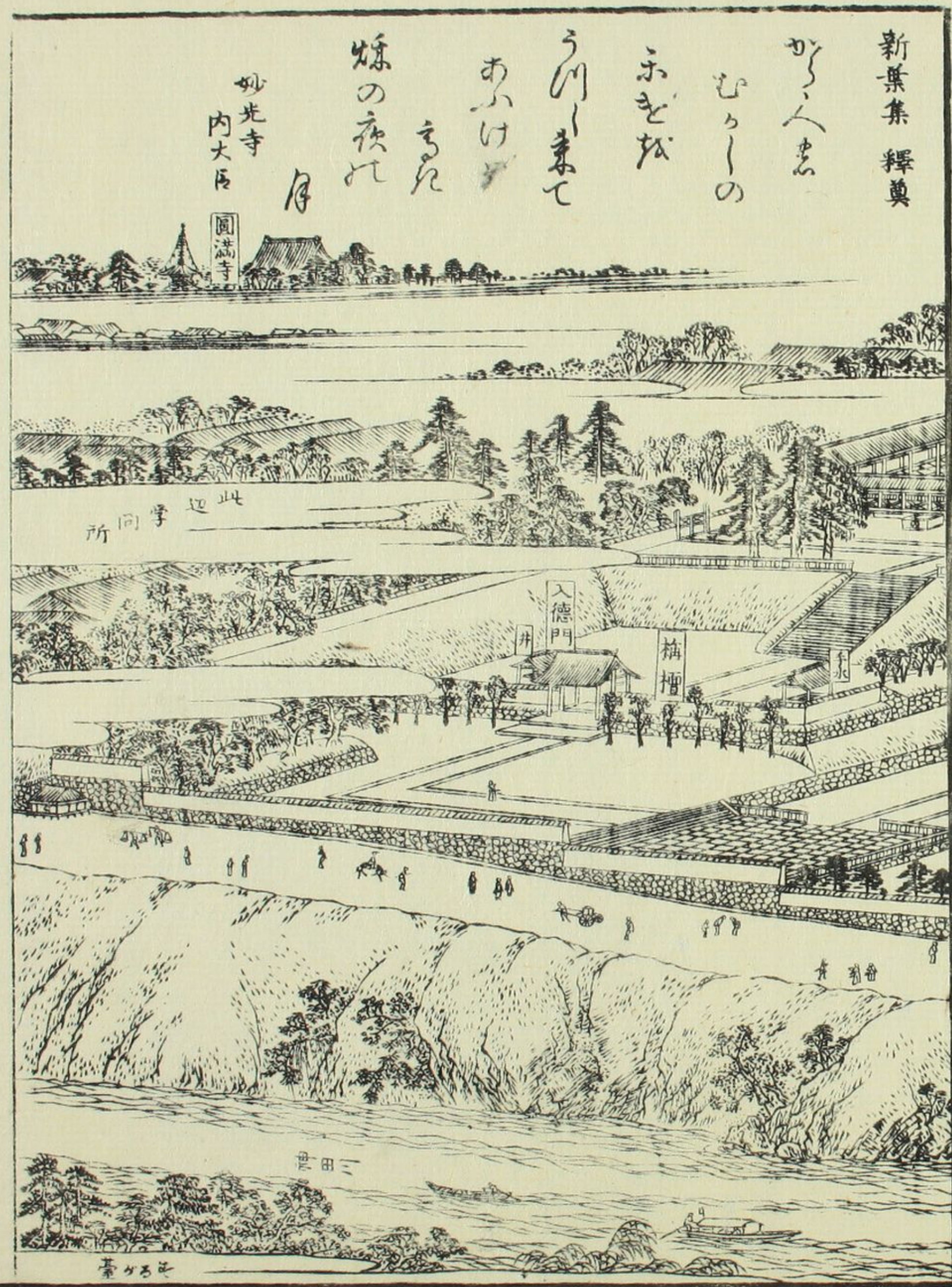
聖堂



十四册五ノ一

新葉集釋奠

かゝ人志
むらゝの
ふき松
うのゝ葉て
あふけ
まね
煉の夜れ
月
妙光寺
内大臣
圓滿寺



此邊學問所

茶山

聖堂 昌平橋の外湯島あり

本殿 文宣王 右顔子 曾子 孟子 大成殿 元禄大樹御筆

廊門 額 唐子思子 額 物門 額 大成殿

檀香

人徳門

高仰

各持明院基輔御筆

寛永十年尾加亞相公 義直卿 林家別荘の地 今東嶽山あり所の山王の社の

加地一廈と経営ありて聖像ありて顔曾思子孟の像を置て先聖殿と號せり

其後田禄の災は罹り遂に元禄四年 台命ありて今の地へ遷させられ御造営有

しよと己降春秋二度の釋奠怠ふことなし 公のさうあり國々の列侯より獻備の

品ありていと嚴重に執行りか儒宗林奈酒世は是を司り奉邦第一の學校ありて

實に東都の一盛典あり 寛政の今所造営あり 釋奠二月八月上の下れ日に行り此日宋六

君子の画像を掛らる 從祀 程明道 程伊川 程伊川 程伊川 程伊川 程伊川

公事根元曰此釋奠ハ文武天皇大寶元年二月より始り禮記の王制小葉を釋

幣以奠て先師を禮せとあり此故に釋奠といふあり後漢明帝孔氏宅に

幸して仲尼ありて七十二弟子を祠とみえたり又先聖といふ孔子といひ先師とい

顔回といふあり人の周公を先聖と云孔子を先師といふ申るは唐太宗貞觀二年より

あつたため先聖先師といふ孔子顔回を申とく又神護景雲二年孔宣父を改

神田大明神社 聖堂の北あり唯一ありて江戸總鎮守と稱せ

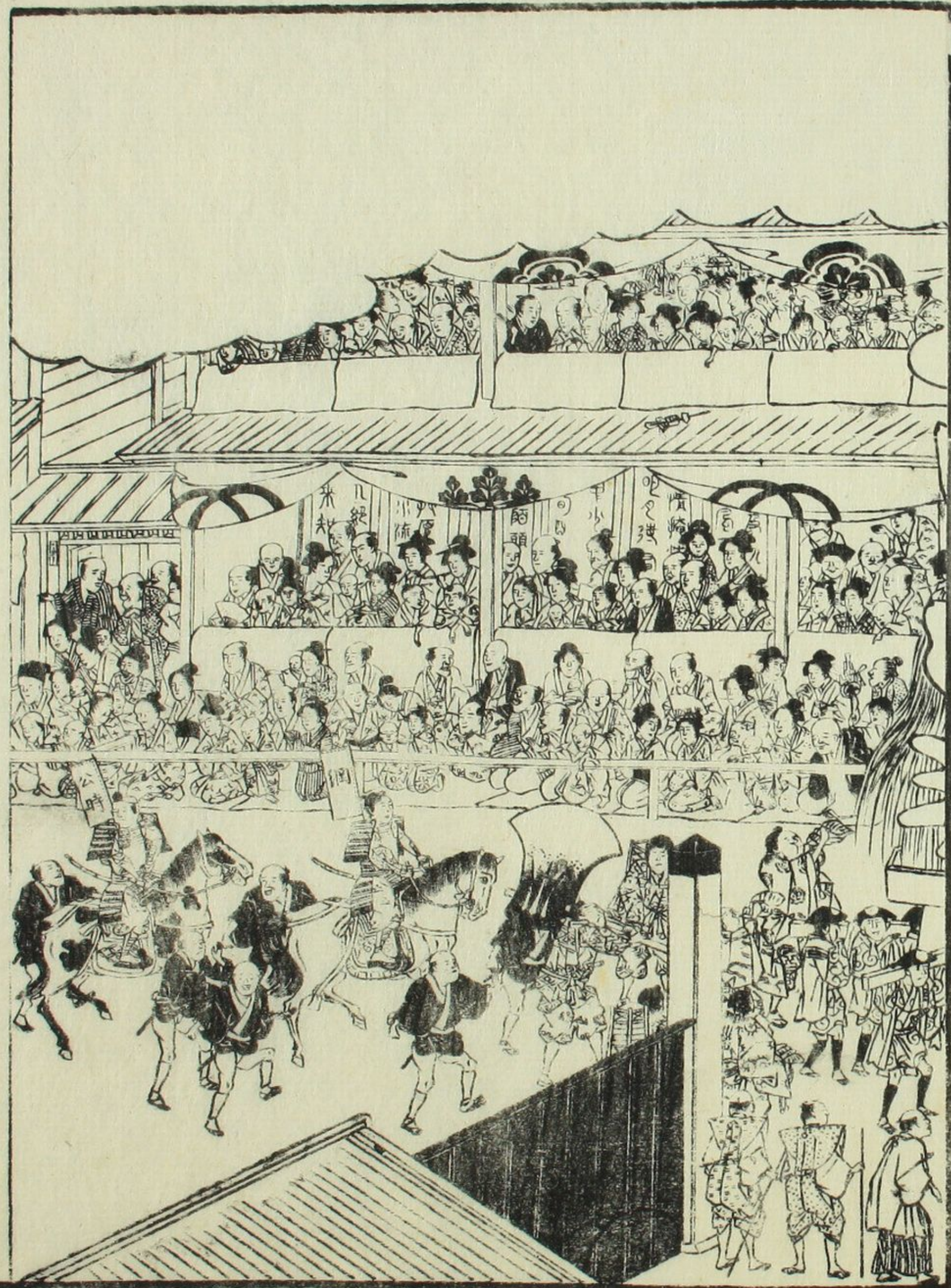
祭神 大己貴命 平親王將門靈 二坐

社傳曰人皇四十五代聖武天皇の御宇天平二年に鎮座ありて其を先柴崎村に

其舊地神田橋 ありて頃中古荒廢し既し神燈絶あせとせしを遊行上人第二世真

教坊東園遊化の砌ありに至り將門の靈を合て二座とし社の傍に宇草庵に

むすびせ芝寄道場と號し 今の浅草日輪寺是なり 其後慶長八年當社を駿河臺より川



神田明神
祭禮

隔年九月十五日に

執行ふ氏子の

町とて練物車樂

出陣中

大江山凱陣

牛若丸奥刃下

朝鮮人未朝の

おと孫遠近に聞て

其名高く

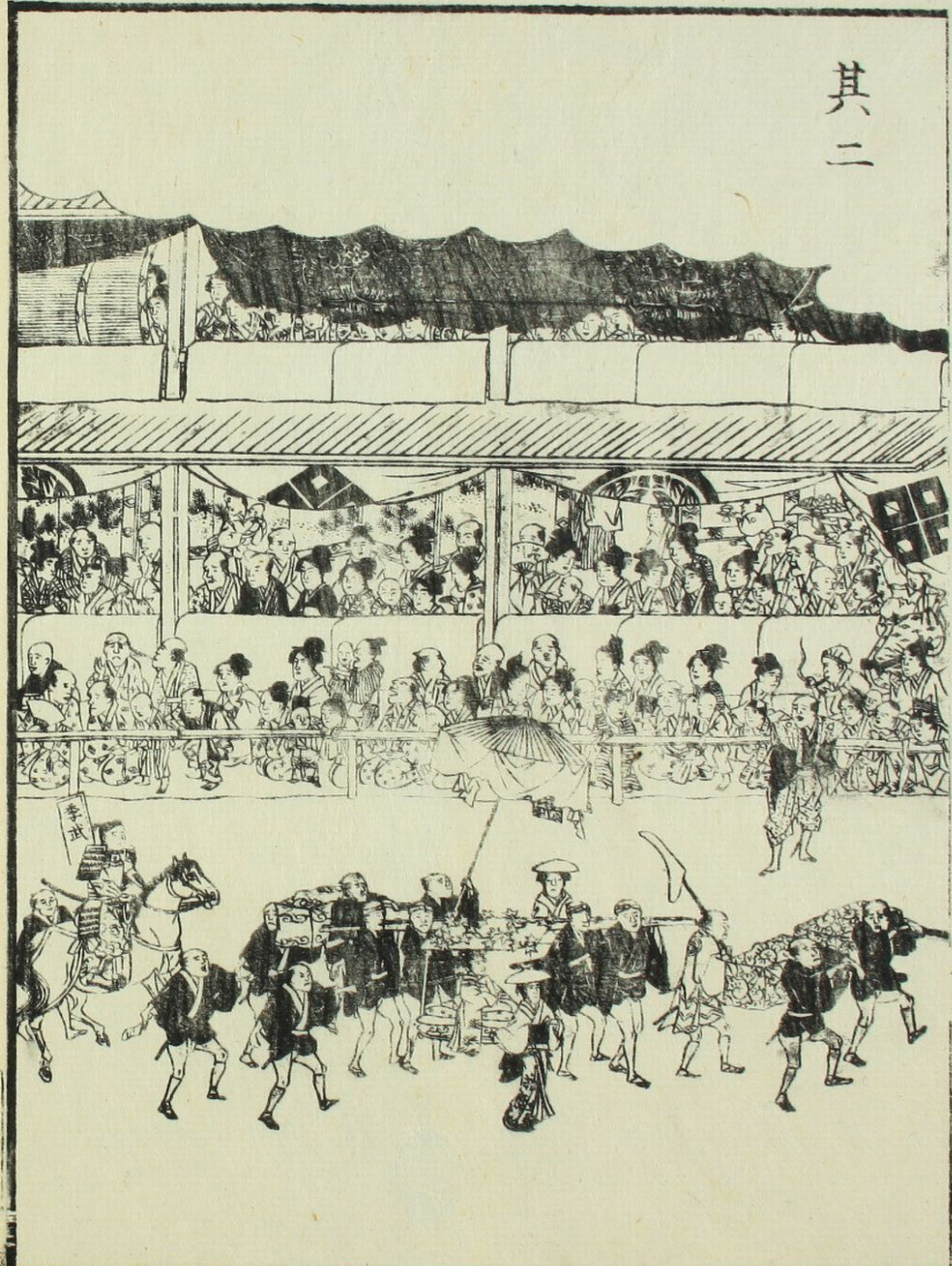
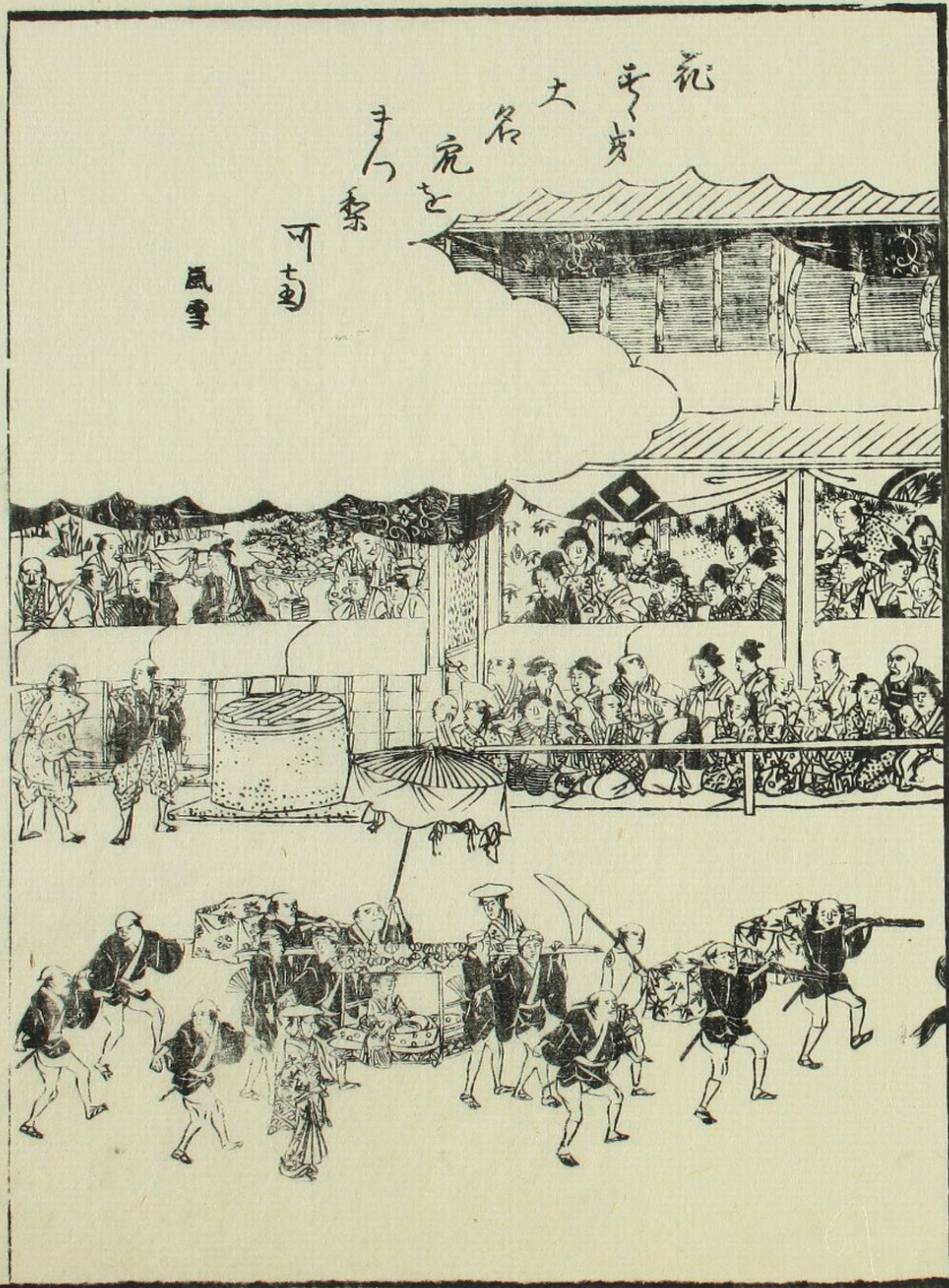
最

美観

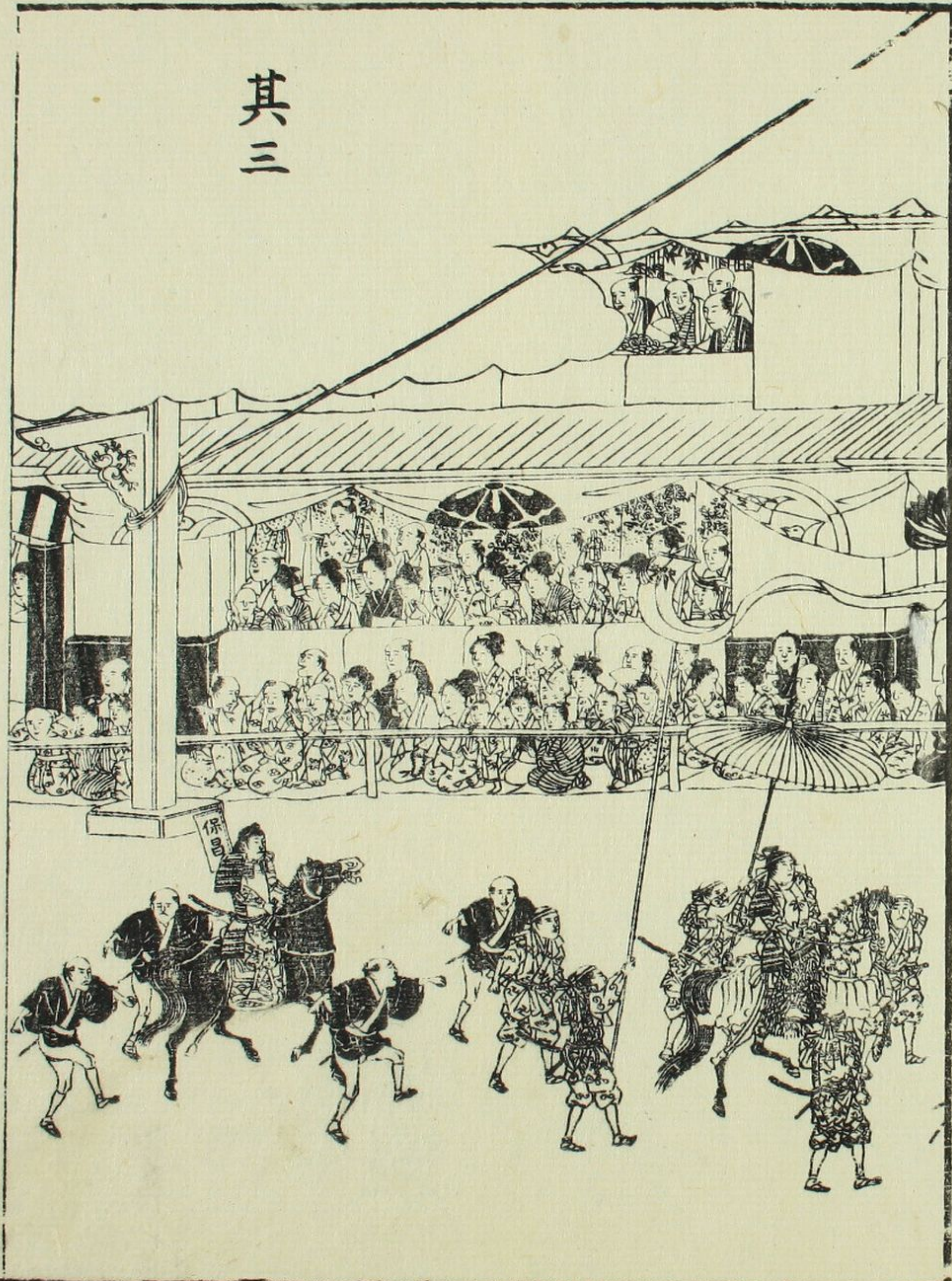
たり

大江山凱陣

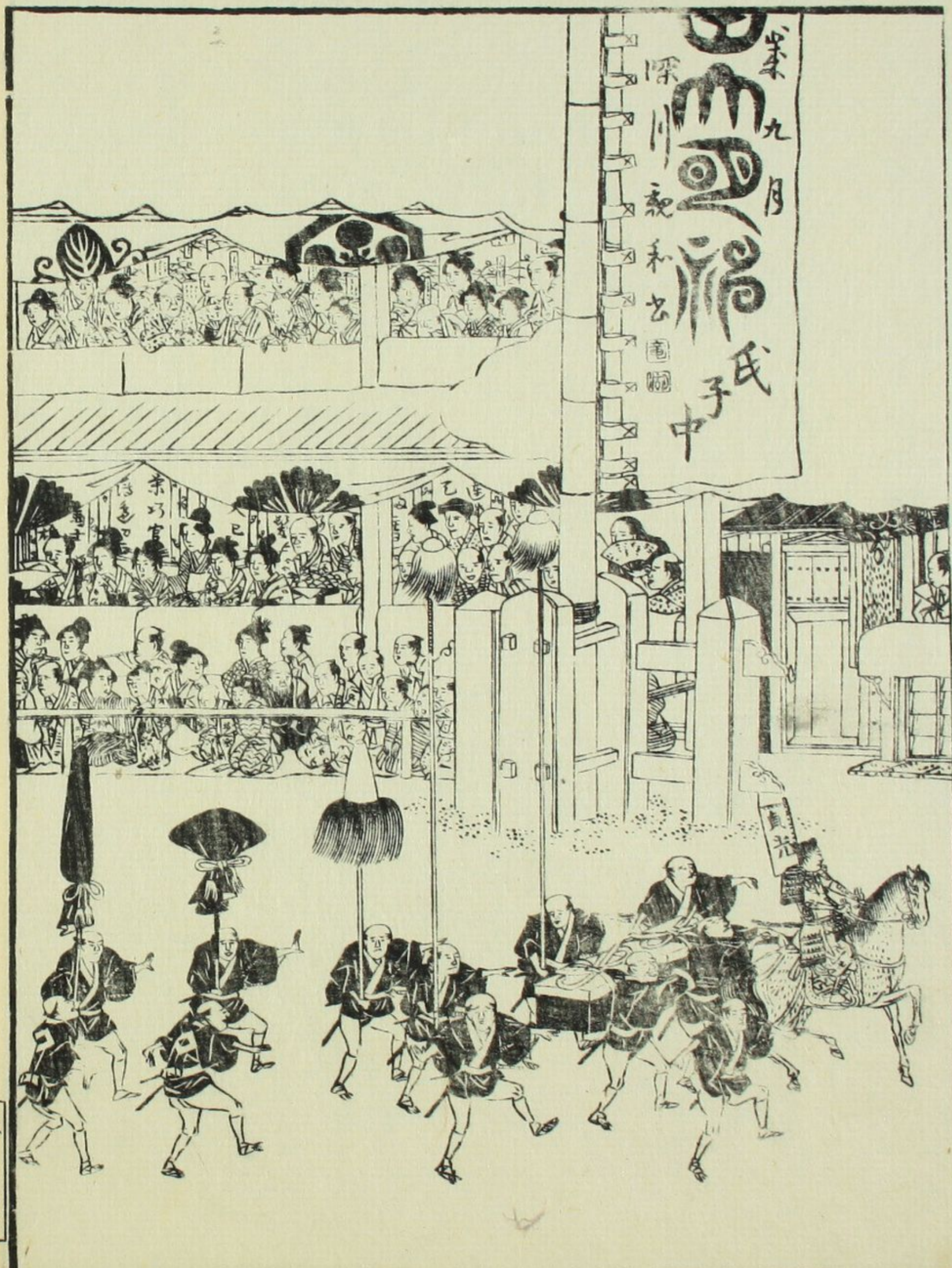
東江源錦書



其三

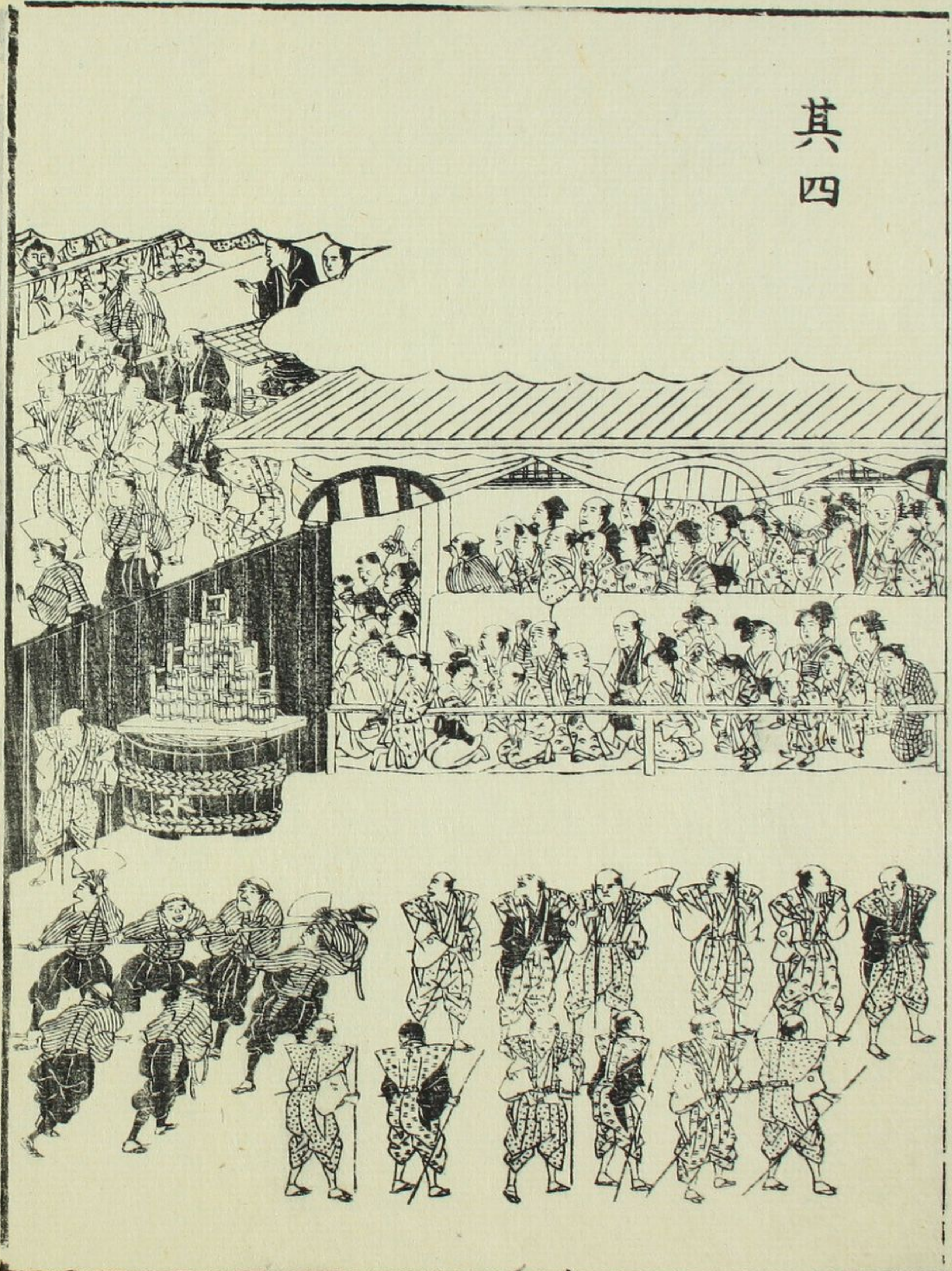


案九月
 深川親和七郎
 福氏
 中



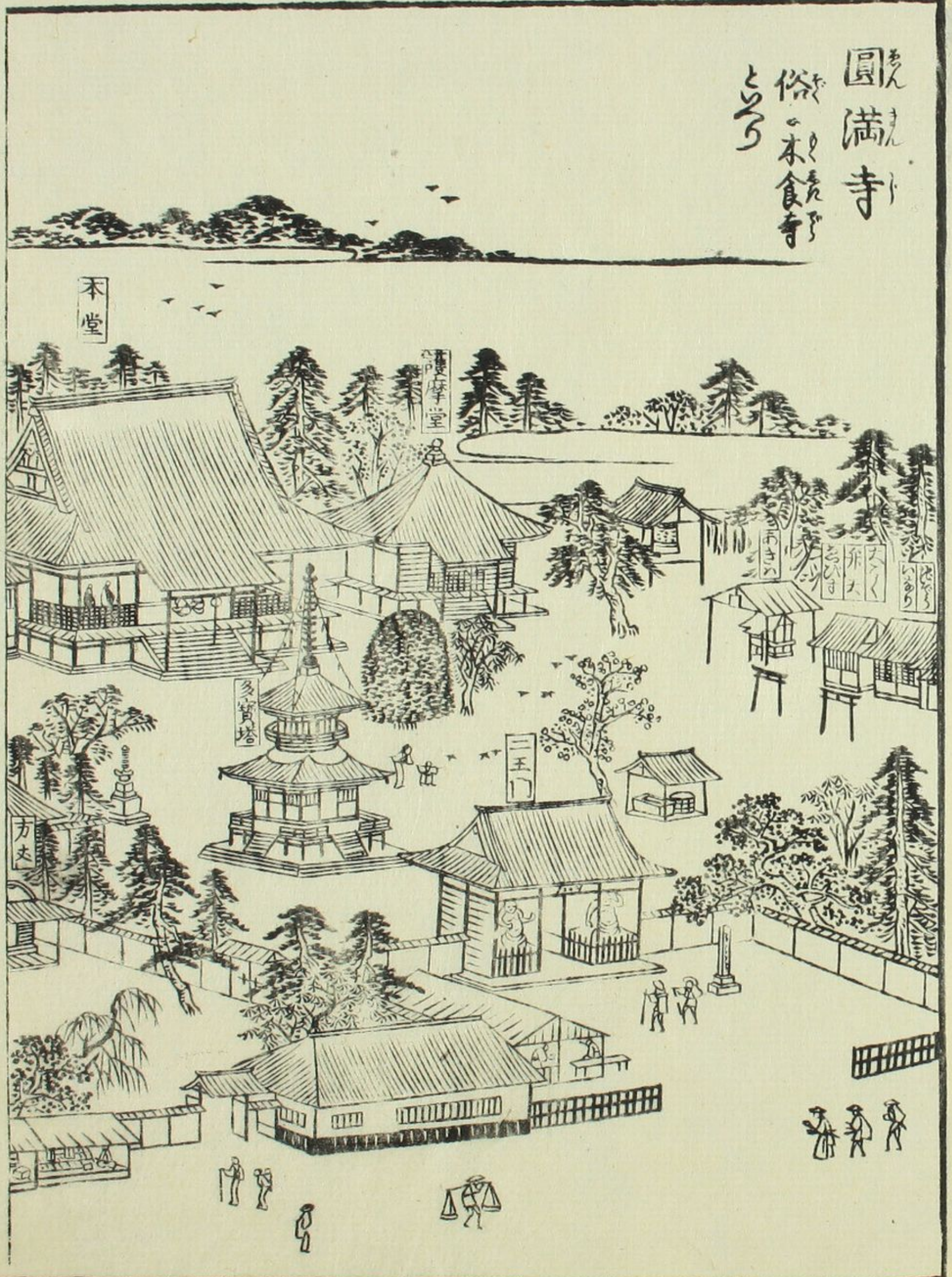


其四



江城湯島の地に至り彼佛の教を随ひ諸人れ求に應じて無量を願ふ
 成就し大に靈驗をありける同七年御室宮へ参るは行法の嚴重なるを
 御感あつて高野山光臺院の住持職に任ぜられたる又天和二年七月十三日
 参内を頭中將隆真卿の傳奏ありて光臺院住持職勅し應に國家安
 全寶祚延長を祈奉るべき旨倫旨賜ふ祖先の忠義に仍て名宗の又元
 祿四年志願によりて光臺院を辭して江戸に到き本郷三組町に住せり其
 其頃
 大樹 常憲公とて浄光院殿須山女を以て御祈禱を仰附る宝永
 六年上京に此時昇殿を許され同七年江戸湯島の地に梵刹を建て
 萬昌山圓満寺と號し
 大樹 文昭公の御志願より今多弾正少弼忠晴奉行たり則上人を以
 て當寺の開山とて享保三年六月七日化縁の終り春秋九十五歳
 歿して遷化を以上開山傳の器と擧

圓満寺
 俗に本食寺
 とす



寶林山靈雲寺 大悲心院と號に圓滿寺の小北方にあり關東真言

律の惣奉寺ありて覺彦比丘の開基たる

灌頂堂 兩界大日如來と安置

大元堂 灌頂堂のうしろにあり奉尊大元明王の像ハ元祿大樹の御筆之

朝の法林寺の大徳元照師の遺徳を師常曉の器を秘して此秘法と授け常曉歸

怨等の書見えり又延喜式云蕃察式曰凡大元帥法每

鐘樓 覺彦和尚自銘と作る

寶林山靈雲寺鑄鐘銘並序

武都北郊有一勝地四星可坐而算管祠良聳神鬼常作
擁一丘崛起一天之靈祇遙為鎮護東嶽天澤後聯鐘梵
互和罷滅聖堂前岫旭曛相映實武野之甲區者也
從四位下柳羽州保明者幕府之侍臣也天性
篤佛之忠孝是勢在公之暇嚮志真乘常歎世季俗
奉堅請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十

二大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒勅營構遐通

木之績倏示告成從四位下始野備後刺史源成貞

者鐘復令工匠也締造其樓今月初四樓鐘偕就以惟

斯寺之興起也者本是樓喜捨家賞命于龜氏鏗成

大將軍之賜而二公醇信之所致也予欲使後生有

感于茲欽遵佛制力荷教法上以禱也予欲使後生有

以增士民壽福也乃為銘曰元帥資地實比布金

城北福庭山號寶林彌歷七旬棟宇成森

作夫四集役工日臨命工作器修弁合程

牧野備公為時股肱臨命工作器修弁合程

架樓突元效響起乍減迷夫天真龍鬼熱醒

聲雖本有乍起乍減迷夫天真龍鬼熱醒

圓性融相誰縛誰泄法音遍益何有垠埒

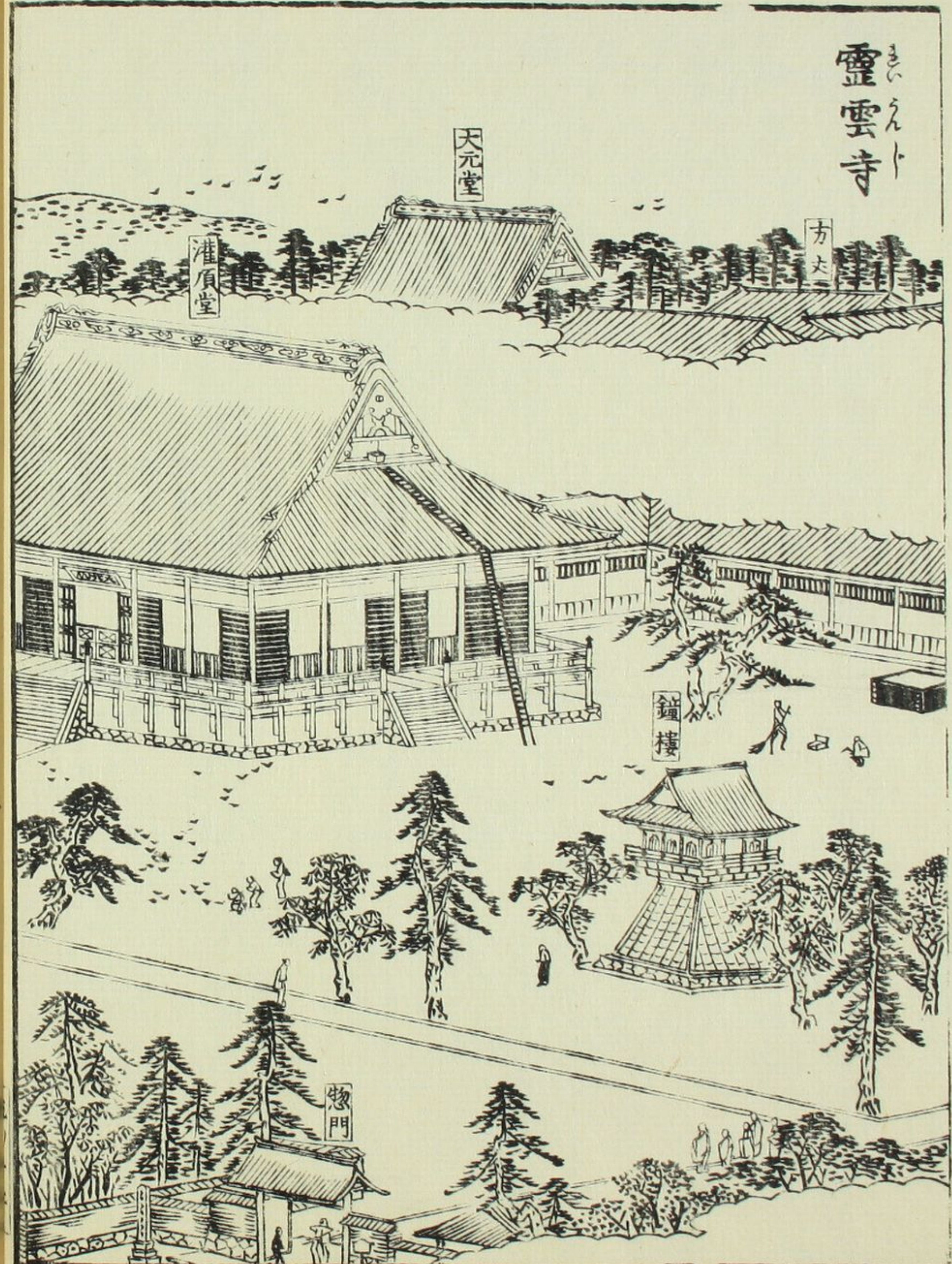
元祿四辛未年孟冬法音遍益何有垠埒

地藏堂 奉尊地藏菩薩の法あり左右の脇檀弘法大師あり

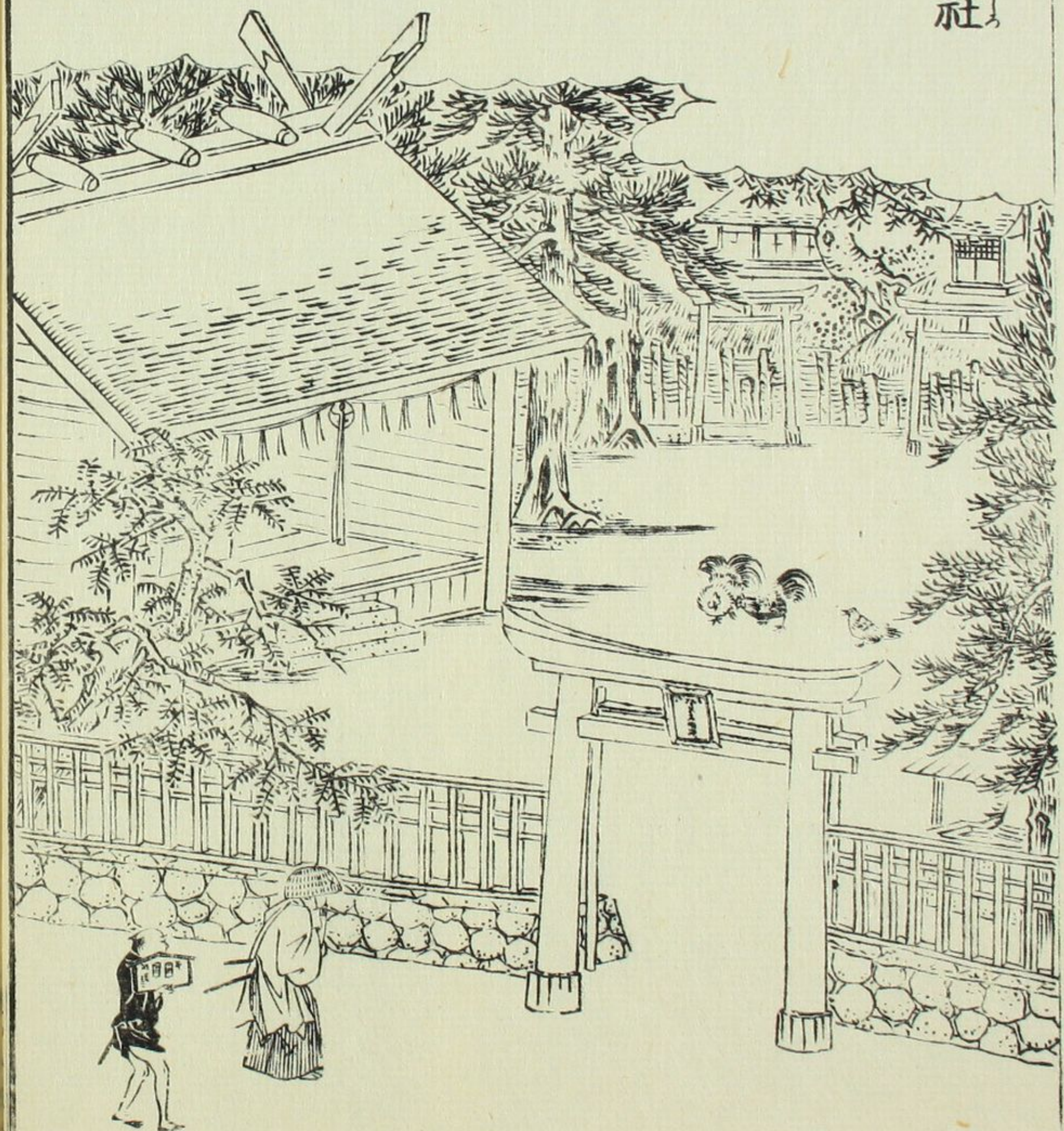
開山諱ハ浄嚴字ハ覺彦妙極と號以河内錦部郡小西見村の産之

氏あり 寛永十六年己卯十一月廿三日に生ふ四葉少くして普門品尊勝大
陀羅尼を誦し奇標穎悟夙因の發する取へ凡耳目の歴る前終に遺忘はる
事なく衆人是を神童と稱せ慶安元年戊子高野山檢校法印雲雪が禮
して難陀を昔に年十歳朝參暮詣倦事なく紀乃亞相公 頼宣卿一彦
見たすひく深く是は器ありと真みされ方外千里の駒なりとのこすふ
遂に真言の諸流に秘奥を究む又餘暇あふらんと孔老を以て諸子百家
歴史等涉されとほかへ常は法戦の場を臨む向ふ取敵かへ貞享
甲子冬錫を開たし飛に其曉瑞雲ありて東を指其色赤黄みして長さ
と數十丈され和尚の法化將み東方に振んとするの兆あり一度東都へ
來りてより法鼓は城の下に震ふ仍ま和尚の道香は慕ひ弟子を禮は
設厚くされは遇はる輩をこれに元禄四年
大將軍 常憲公 召見し普門品を講せむ雄辨泉の流あがごとく聴者
欣然とて善と稱は遂に城小くして地を賜ひ梵刹に經始はるよきひく

佛殿僧房香厨門廓覺を連ね巍然とて一精藍をたれ號く靈雲寺
と不足往年の瑞は依りたり遂に密檀を建秘法を行講筵を鋪大密
教を唱ふにをんと諸名匠衣を搦て來り至は同五年壬申六月大元帥
の大法を修し國家昇平を祈ふされを以後毎歲三神通月七日後
法を修し永規とて翌年多麻郡の戸若干を割て香積に充關東真
言律の僧統となしたまふ又乙亥夏
大將軍 常憲公 齋戒し普門品を畫き奉尊に
下し賜ふ 安置し奉ふ 同十年丁丑僧俗の請は依り曼陀羅を因く檀
場に入者九万人み我今法界三昧ふ入といひて恬然とて順化は
諸徒は召遺誠懇懃なり我今法界三昧ふ入といひて恬然とて順化は
世壽六十四僧臘二十七時は顔四十許色相怡悦とて平生は勝る師常ふ
弘通を以て己が仕とて受取の財帛をこし貯えば又みまらに費さば佛像
を造り聖教を索め堂塔を構貧窮を濟ふ茶後經論を講説を起とて一百



妻戀明神社



三十六會殆三十席秘軌と授ふこと五回著述せし取の書三百卷余度モ
 此處の僧尼四百三十六人具足戒を受ふ者十有三人阿闍梨を得る者二百六
 十八人受明灌頂ははる者千六百三十一人菩薩戒を受ふ者一萬五
 千人其餘の法化の奉て數あつて往哲のいまも發せざれを發し先賢
 未明ならずば成ありの法化洋々として天下に彌布し王公と
 下愚夫蠢婦に至る迄敬仰せむといふことあり今古のむと考くあきざり所
 實に總持復古の師なり 以上當寺開山傳の要を摘ぐとて記す
 妻戀大明神社 妻戀坂の上にあつて治年中圓祿ありて後今の妻戀臺
 にも遷らせり

祭神 第一殿 倉稻魂神 第二殿 日本武尊 第三殿 弟橘媛命
 社傳曰當社を往昔日本武尊東征の頃行宮の地ありと云
 按に日本紀より日本武尊東夷征伐の時妃弟橘媛海水に入て野國碓日嶺に
 登り東南の方と望たまひ五日婦者耶と宣ふ見えり野國碓日嶺に
 征の時行宮の地ありと云彼尊を鎮奉り妻戀臺ひたまふの意を取て直り

妻戀明神と号しカ多し今稻荷明神と号す社の號は
稱せられたりといふもその後世合祭せられたり云々

往昔社地も妻戀墓の下にありて境内をゆるぎ廣くしに教度
を兵火に罹り大に荒廢よき比纒み社の形をうると残せり時天正
年中

神君當社より祈願の奉ありて新に二丁四方の社地を賜ふ又寛永五年

台命みよとく

神君の御像を別社に鎮座あり先終ふ
今稻荷の社に鎮座を奉るとり

湯島天満宮 妻戀明神の小れ方あり大田道灌江戸の静勝軒より頃

文明十年 夢中に菅神を謁見せ翌朝外より菅丞相親筆の函像を携はる
者あり乃ち夢中神を其所の尊容を彷彿せり以て直に城外の小に祠堂と

宮根神影と安置し且梅樹數百株と栽美田等と附を即當社是あり

以上諸社一覽江戸名所記等の書に出たりとも其誤りも勘平河天神に
菅丞相親筆の函像と稱するものありて之を當社に此點あることを其論

あはれとて安
み要なり

北国記の

湯島の圖にありは湯島といふ所あり古松を栽りてわがうに連のうらみ
武藏野の遠望を懸たふに寒村の道より野梅盛み薫はまれば
小型の神と聞えたり

三つは東風吹むとて遠くまのの神を植かみ 亮惠

湯島神社 土人戸隠明神と稱す本社の後れ方あり則此社の神あり

風土記曰豊島郡湯島神社雄畧天皇御宇二年癸巳

天澤山麟祥院 同所北の方よりあり臨濟宗江戸四箇寺の一なり

恩山天澤寺と稱せしが春日局の本尊ハ釋迦如来円山の滑川劉和尚

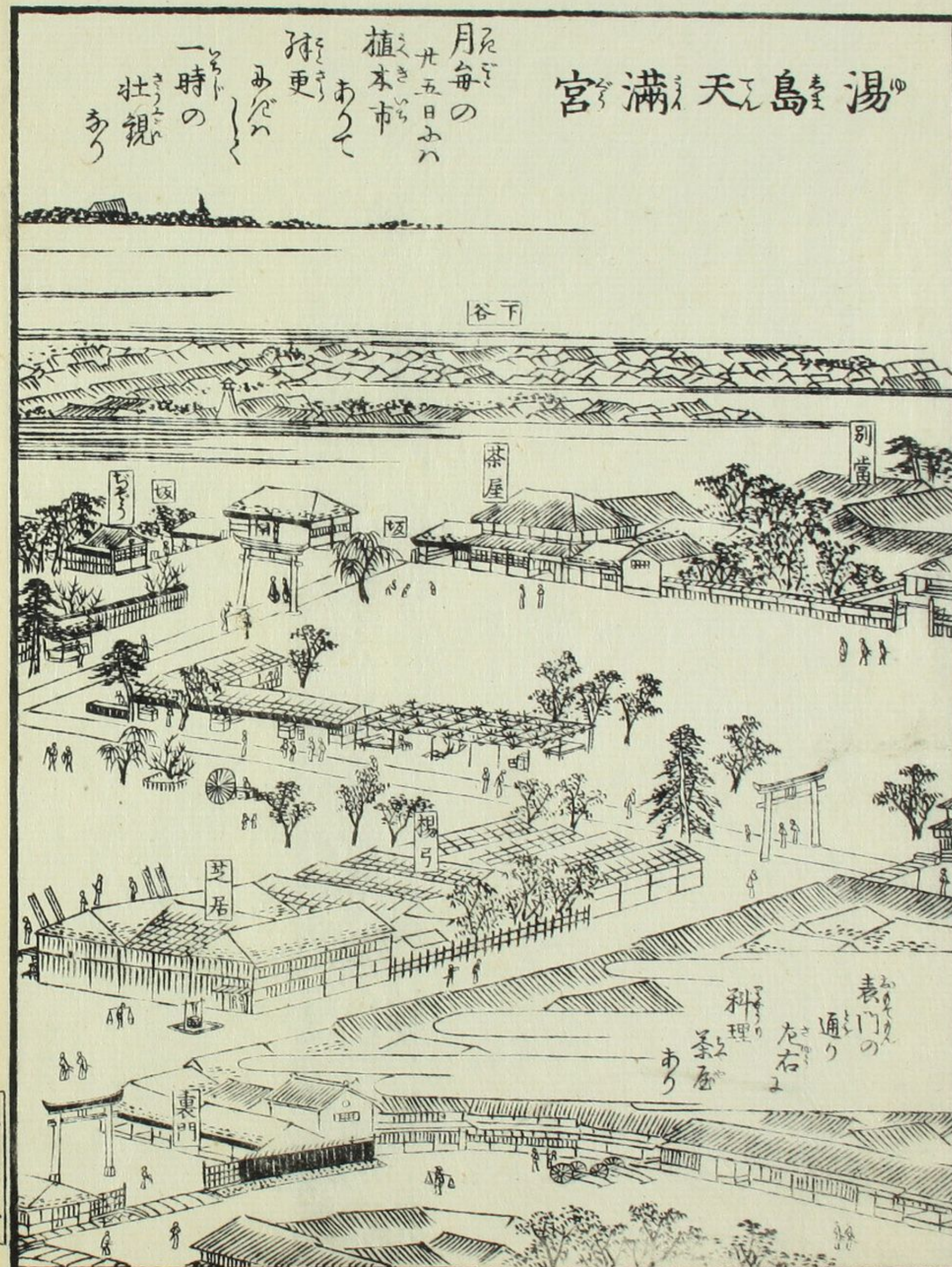
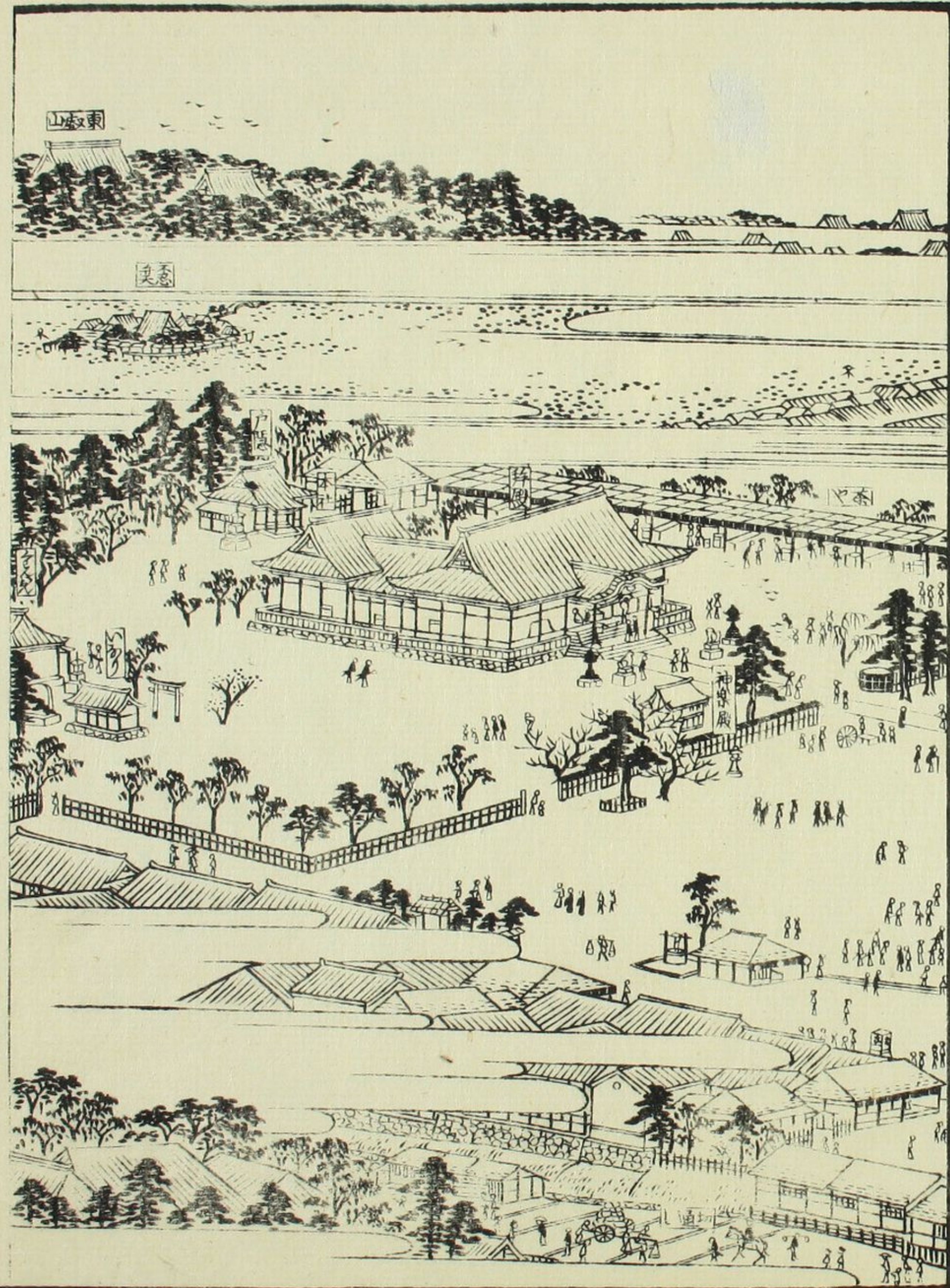
法号を取て麟祥院とありしむ 三代大將軍の御乳母人齋藤利三の
女がて稲葉彦正成の室あり寛永

寺傳曰寛永元年甲子 二代大將軍の 命みよとて當寺を春日局

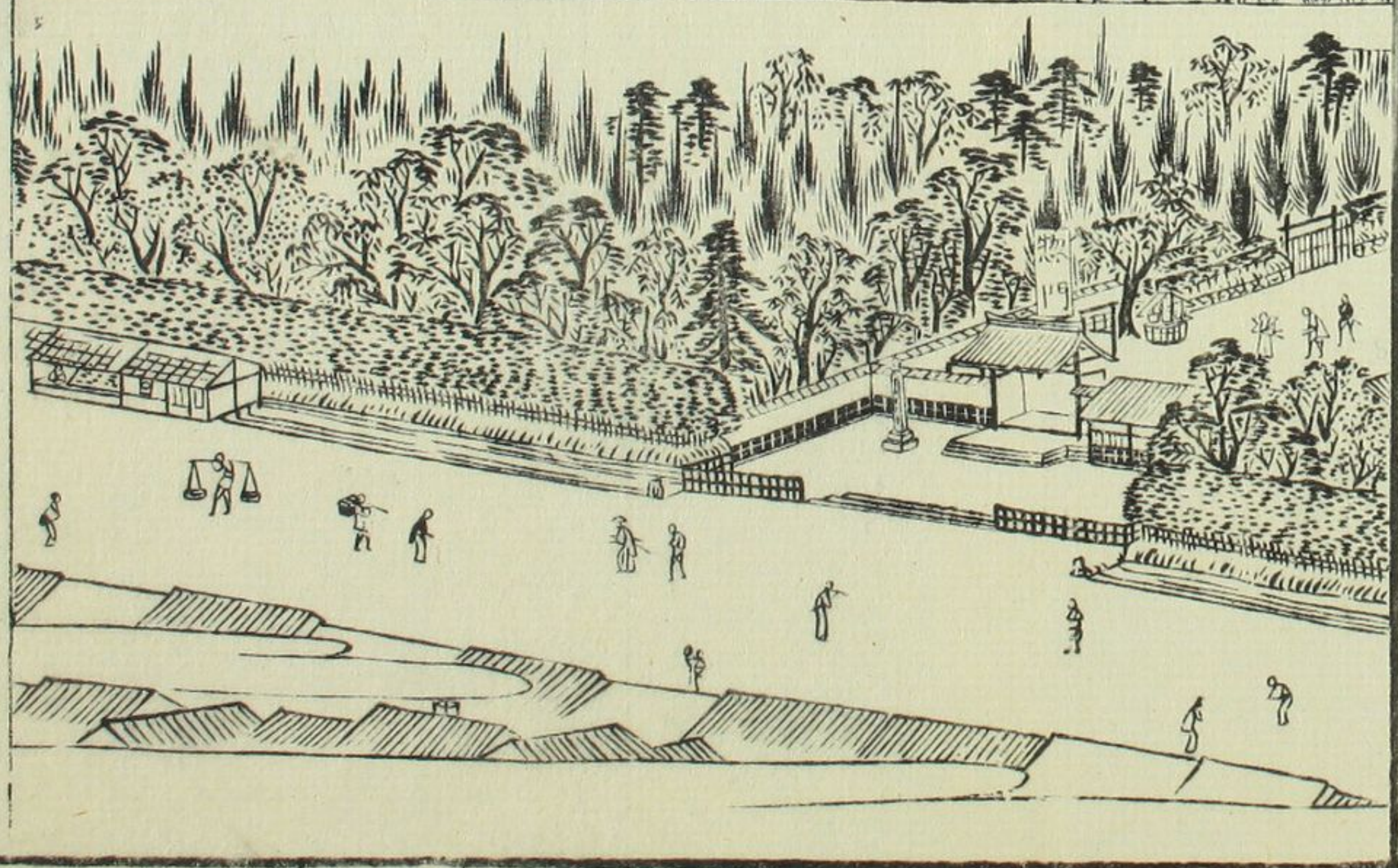
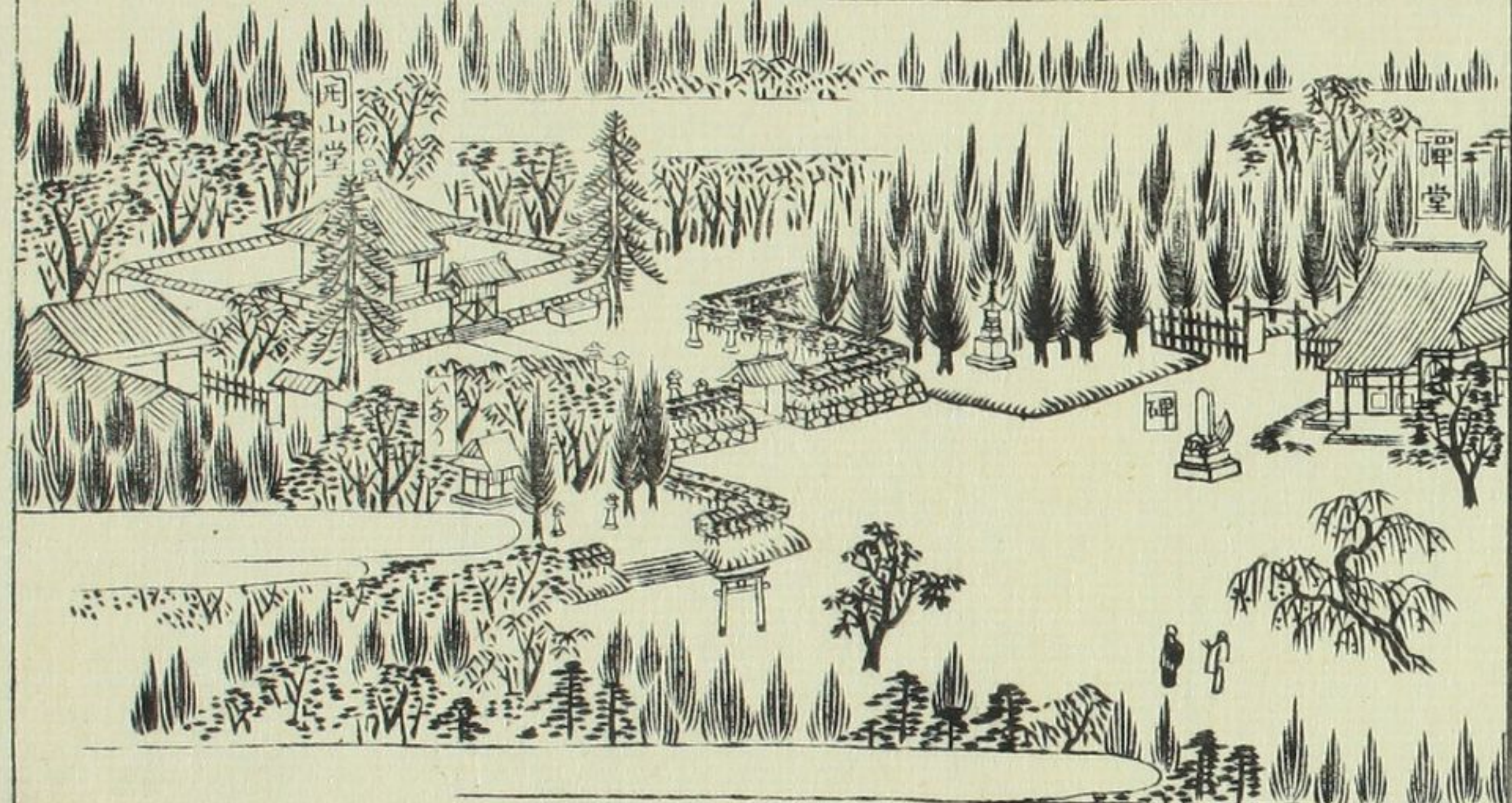
を菩提所とし且其殿閣をよりに移し 天和二年田禄を其以前の襖今十八

等皆雲谷 同五年 三代大將軍 不豫ありせられしは局自ら

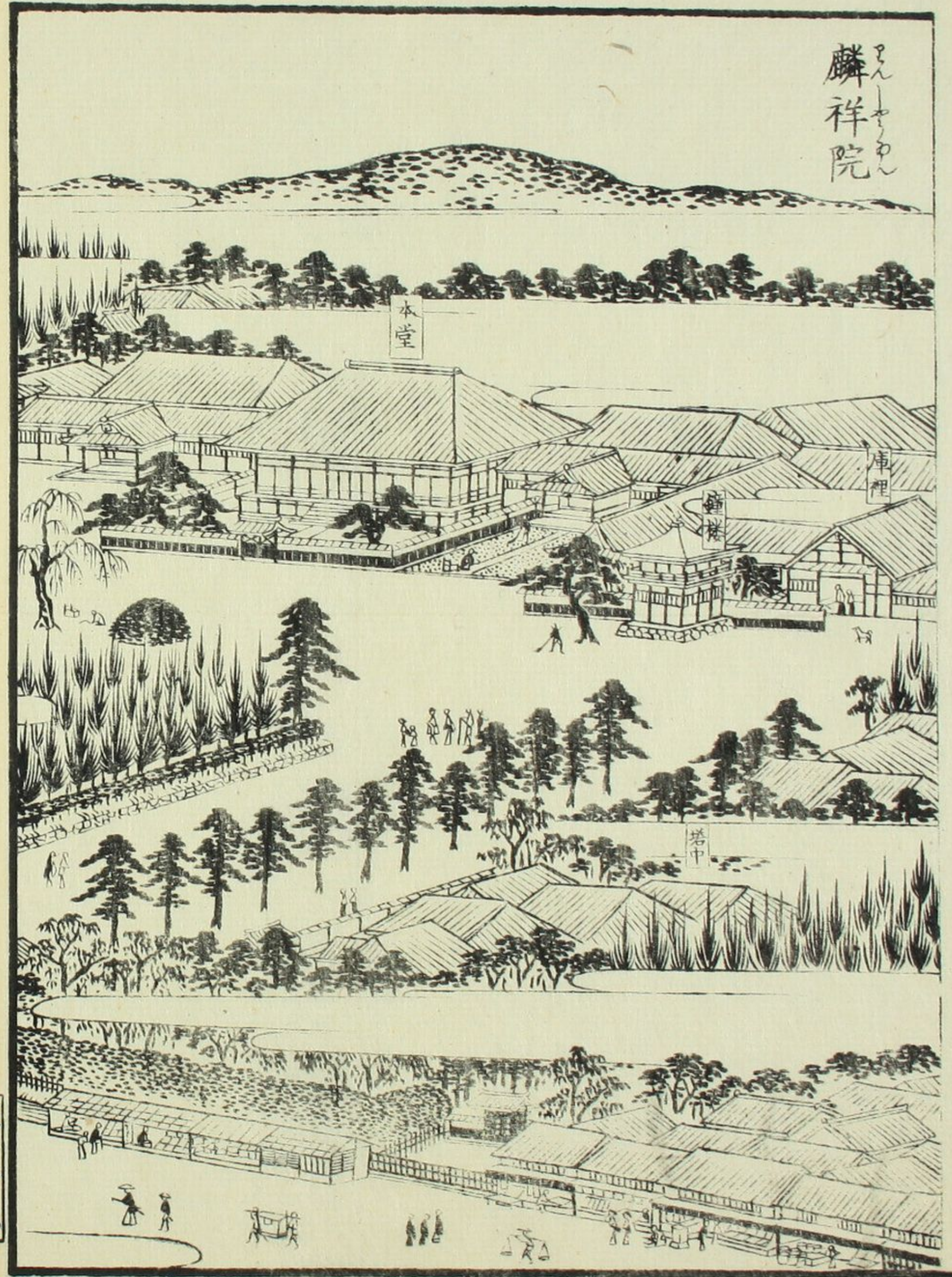
東照大権現の 神前より詣りて日妾が身不浄ありしとも苟も乳

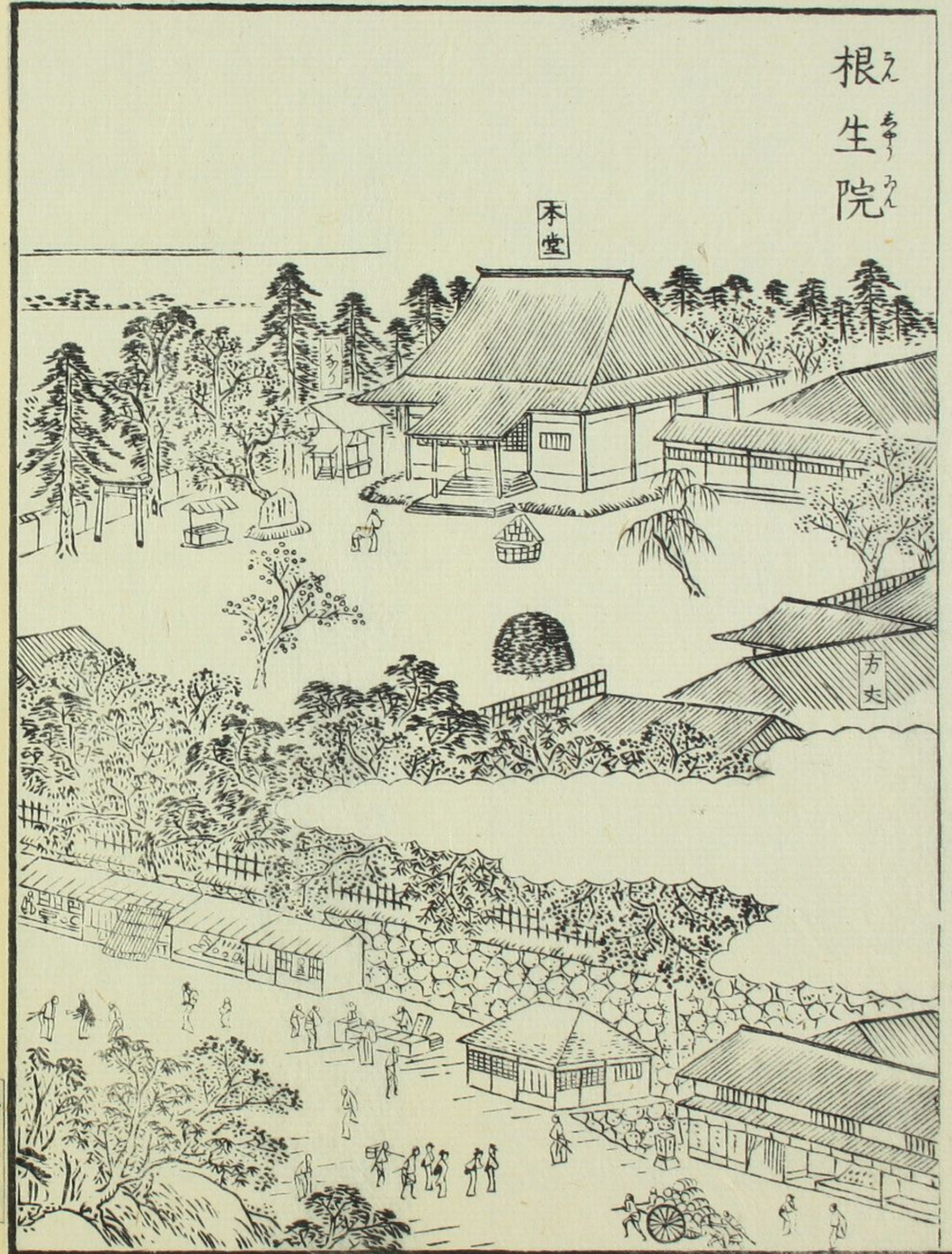
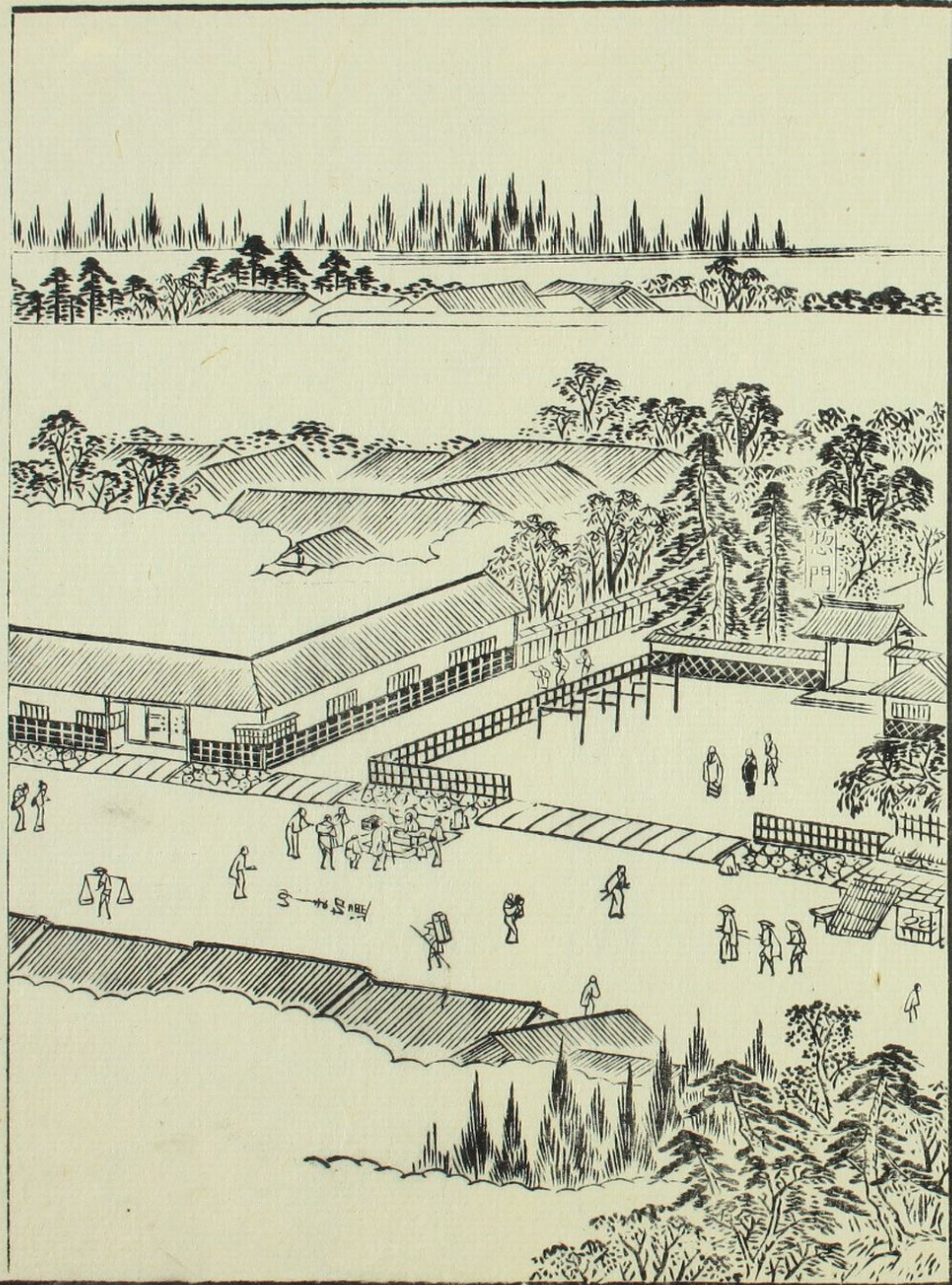


以屋
 ともう丸
 きまの
 わくまの
 かまろ山
 よま
 朝日丸
 光る
 大津
 鳥丸光廣卿



麟祥院
 りんしょういん





味と奉^{たてまつ}乳母の称を汚^{けが}し歳月祠奉^{とら}り且將軍ハ萬民ハ父母之
若今大故あふれ^り國家の安危^{あんき}にわたり^り因^よ願^{ねが}ひの妾^{めかけ}が身を以^{もつ}
是^{これ}に替^かり奉^{たてまつ}らむ若快復^{かいかん}あり^しわに忽^{たちまち}に身^み病^{びやう}苦^くを受^う誓^{ちか}て醫^い藥^{やく}
を用^{もち}て死^しせむと云^い其衷誠^{そのちゆうせい}正^{ただ}感^{かん}應^{おう}ありて日を経^へて常^{つね}にあ^らせ
たまふ仍^{なほ}身^みを終^おふまで針灸^{せんきう}藥餌^{やくじ}を用^{もち}ひば同^{どう}六年^{ねん}洛^{らく}より上^{かみ}り春^{はる}内^{うち}
以西^か三条^{さんじょう}大^{だい}納^{なつ}言^{げん}實^{じつ}條^{じょう}卿^{けい}兄弟^{けいてい}み準^あせられ春日^{かすかひ}局^{くわく}の号^{ごう}を賜^{たま}ふ遂^{つひ}に
天^{てん}顔^{げん}後^ご水^{すい}尾^び帝^{てい}を拜^{まつ}し天^{てん}盃^{はい}を頂^{ちやう}戴^{たい}む此^{こゝ}時^{とき}良^{らう}尚^{しやう}親^{しん}王^{わう}あ^らび實^{じつ}條^{じょう}卿^{けい}
光^{こう}廣^{くわう}卿^{けい}と和^わ哥^かを贈^{くわ}らば

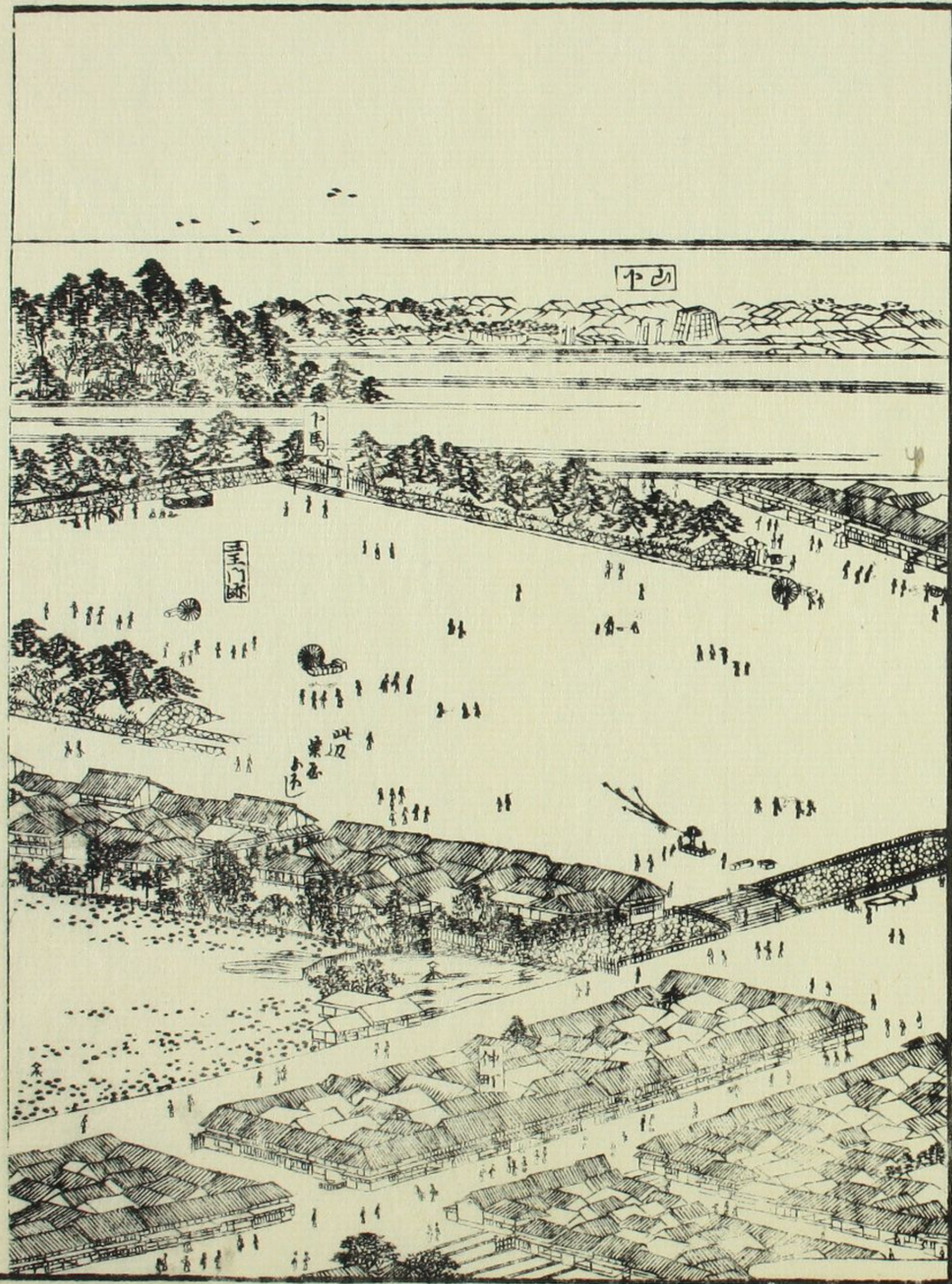
春日山其名^{かすかひやま}代^よもみあ^らりて弟^{あに}代^よもみ松^{しょう}の風^{かぜ}も良^{らう}尚^{しやう}親^{しん}王^{わう}
かまぐ世^よの名^なありれ名^なあり^し紫^{むらさ}れ色の^{いろ}の拵^{しら}りも世^よあ^らりれん 實^{じつ}條^{じょう}卿^{けい}

心^{こゝろ}た^たり君^{きみ}の^みほり^りれ本^{ほん}日^{にち}局^{くわく}の^よ朝^{あさ}日^{にち}を^ひ先^まに^いて^は光^{こう}廣^{くわう}卿^{けい}
其^{その}外^{ほか}奉^{たてまつ}自^{みづか}集^{じふ}に^は山^{やま}長^{ちやう}嘯^{せう}子^しと^を賜^{たま}ら^り野^の東^{とう}都^と下^げ向^{むか}談^{だん}別^{べつ}の^は和^わ哥^か詞^し書^{しょ}等^ら
あ^あれ^れと^とも^もあ^あり^りに^に異^いは^はれ

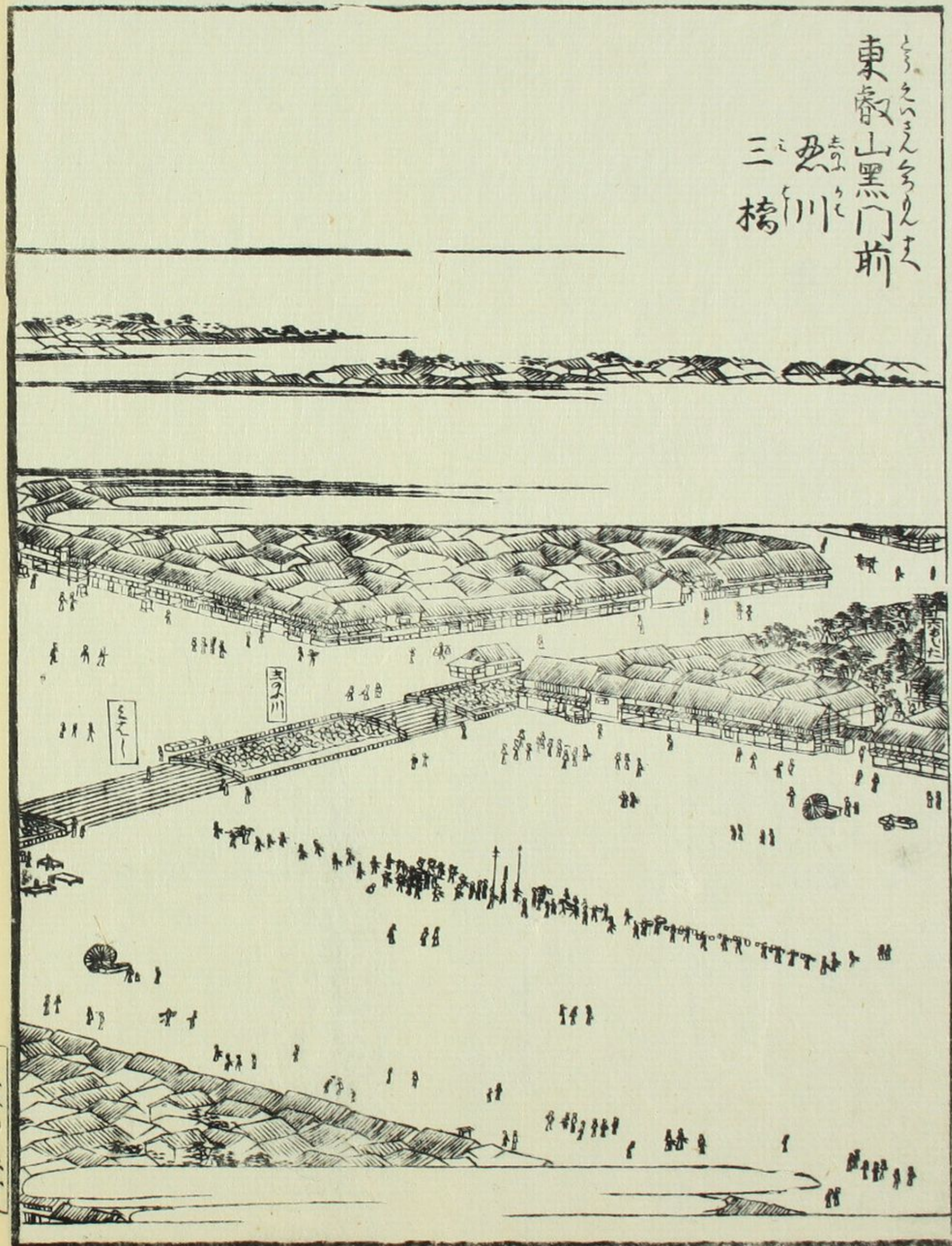
同九年 台命^{たいめい}は依^より再^{また}び洛^{らく}より上^{かみ}り 女^に帝^{てい}明^{めい}正^{せい}帝^{てい}を拜^{まつ}し奉^{たてまつ}ら

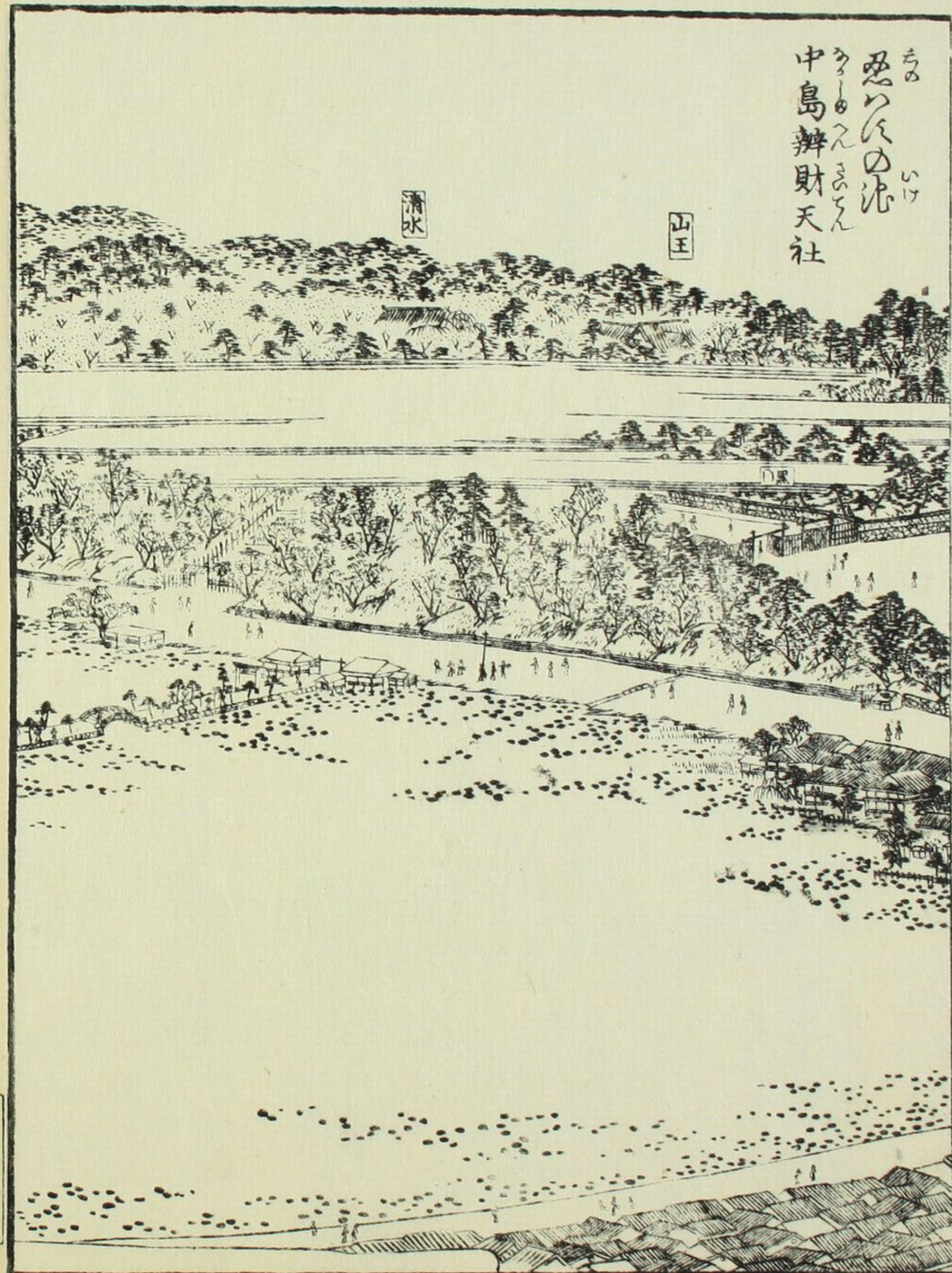
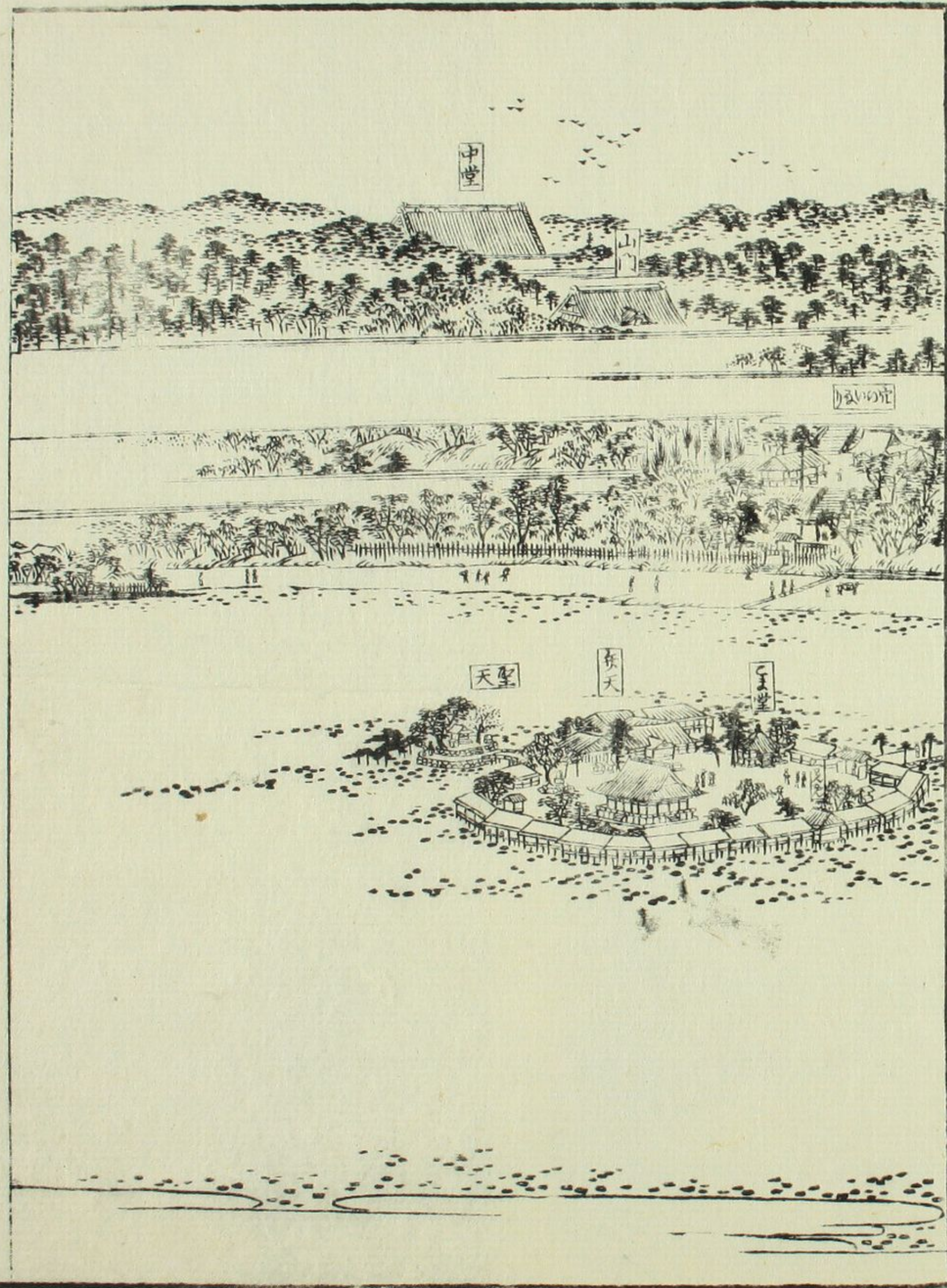
後^ご勤^{きん}勞^{らう}歸^き休^{きゅう}のため代^よ官^{くわん}町^{ちやう}宅^{たく}地^ちを賜^{たま}ひ從^よ二位^にみ叙^{じゆ}せしむ
景^{けい}堂^{だう}の生^{せい}前^{ぜん}撥^{はつ}東^{とう}と春^{はる}せし^し親^{しん}影^{えい}を置^お此^{こゝ}像^{ざう}の^は治^ち命^{めい}に^よりて特^{とく}野^の探^{たん}幽^{ゆう}局^{くわく}
大^{だい}將^{しやう}軍^{ぐん}命^{めい}せし^し所^{ところ}か^かと唐^{たう}草^{そう}の^は純^{じゆん}子^しに^に卍^{まん}壽^{じゆ}の^は字^じを^を織^お入^いり^り毎^{まい}年^{ねん}九^く月^{げつ}十^{じゆ}四^し日^{にち}忌^き
金^{こん}剛^{かう}寶^{ぼう}山^{さん}根^{こん}生^{せい}密^{みつ}院^{いん} 延^{えん}壽^{じゆ}寺^じと號^{ごう}を同^{どう}東^{とう}の^は方^{ほう}にあ^らり真^ま言^{げん}新^{しん}義^ぎ江^え戸^こ
四^し箇^こ寺^じの一^{いつ}みして寬^{くわん}永^{えい}れ始^{はじめ} 御^ご祈^{いの}願^{げん}所^{じよ}に 命^{めい}せし^し於^を奉^{たてまつ}尊^{そん}藥^{やく}師^し如^に
來^{きた}ハ佛^{ぶつ}二^に春^{はる}日^{にち}作^{さく}脇^{わき}檀^{だん}に^に十二^{じふに}神^{しん}持^ぢの^は像^{ざう}を^を置^お崇^{すう}奉^{たてまつ}誓^{ちか}法^{ぽう}印^{いん} 春日^{かすかひ}局^{くわく}の^は松^{しょう}と^と川^{がは}と^と
閑^{かん}山^{さん}と^と凡^{ぼん}

不忍^{おのづ}池^ち又^{また}篠^{しの}輪^{りん}津^つ 東^{とう}叡^い山^{さん}の^は西^{せい}志^し麓^{りふ}は^はあ^らり江^え州^{しゅう}琵琶^{びや}湖^こは^は比^ひを^を對^{たい}して^の名^なあり
廣^{くわう}方^{ほう}十^{じゆ}丁^{てい}許^こ池^ち水^{すい}深^{ふか}くして早^{はや}魁^{けい}も^も酒^{しゆ}る^ると^と遂^{つひ}殊^{しゆ}は^は蓮^{れん}多^たく^く花^{はな}の^は頂^{てい}ハ^は紅^{こう}白^{はく}咲^さ亂^{らん}
天^{てん}女^{にょ}の^は宮^{みや}居^いは^はさ^され^れ蓮^{れん}の^は上^{かみ}湧^ゆ出^でる^るが^が如^{ごと}く其^{その}芬^{ぶん}芳^{ほう}遠^{えん}近^{きん}の^は人^{ひと}乃^{すなは}袂^{たもと}を^を籠^{かご}ふ
風^{かぜ}土^{つち}記^き曰^い豊^{ほう}島^{じま}郡^{ぐん}篠^{しの}輪^{りん}津^つ池^ち貢^{きん}鯉^り鮒^ぶ鰻^{わん}魚^{ぎよ}鴻^{こう}雁^{えん}鶴^{かく}鶴^{かく}鷺^ろ
鴨^鴨等^ら周^{しゅう}行^{かう}十^{じゆ}里^り許^こ程^{てい}早^{はや}日^{にち}水^{すい}不^ふ涸^こ霖^{りん}雨^う不^ふ爲^な害^{がい}祈^{いの}早^{はや}
兩^{らう}人^{にん}詣^よ于^を茲^{こゝ}所^{ところ}祭^{さい}瀬^せ織^お津^つ比^ひ咩^い也^{なり}云^い云^い
中^{ちゆう}島^{じま}辨^{べん}財^{さい}天^{てん} 不^ふ忍^{にん}池^ちの^は中^{ちゆう}島^{じま}は^はあ^らり當^{たう}社^{しゃ}々^々江^え加^か竹^{ちやく}生^{せい}島^{じま}の^はう^うり^りみ^みり^り



東叡山黒門前
三橋川





奉尊辨財天と云ひ脇士多聞大黒の二天ともて慈覺大師の化あり

社傳曰往古東叡山草創の時慈覺大師此池を江洲の琵琶湖よみとら新

又中島を筑立て辨天の祠を建立せられと云 建名取記云水谷伊勢守

聖天宮 奉社の北の方小島小勸請す此島其始天の祠あり 舊池あり其頂由この聖天の宮

紫銅華表 額 天龍山 細井廣澤筆

昔の離島小にて松もて往末とて寛文の未陸より道以築て糸清の人便

わらへ己巳日の前夜より糸清群集す

東叡山寛永寺 圓頓院と號す人皇百九代 後水尾帝の御宇寛永年中

比叡山延曆寺に比せられ江城の鬼門を護るの靈區とて慈眼大師草創有

爾より己降代々一品法親王座主として今天下才一の枕刹たり

中堂 奉尊藥師如來 傳教大師の化也 正五九月十二日ある山の僧徒住ありて大盤若經薄積あり此堂中

脇士 日月二大神將 慈覺大師の化也 天井の中央小盡ける龍ありひにうろの壁上に居せる不の十六羅漢等の像ともて特許永叔の筆あり

脇壇 不動明王 智澄大師の化 多聞天 定期の作

瑞瑞殿

靈元法皇震筆

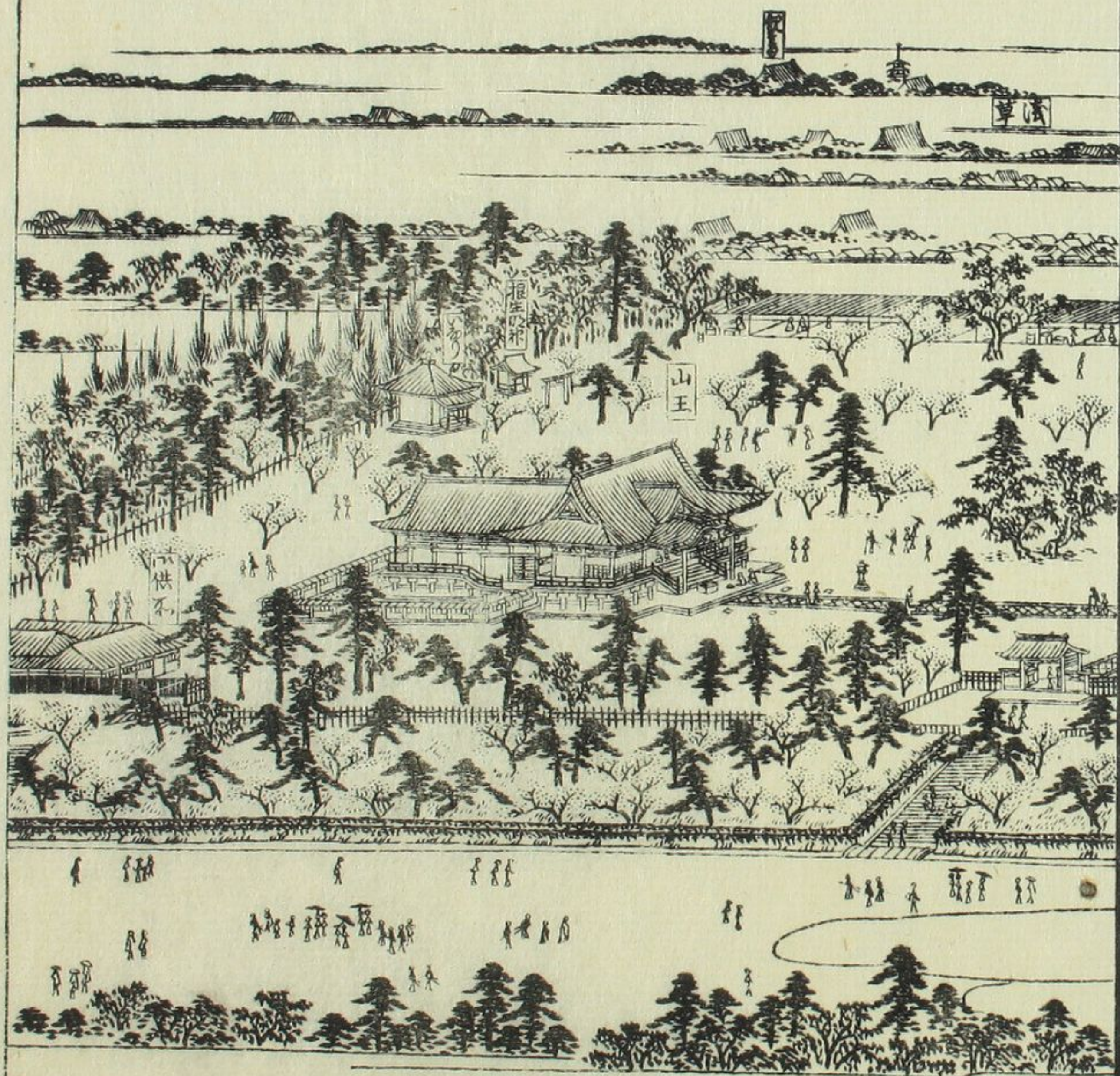
竹基 席門のうら方右にあり昔慈覺大師入唐の時五基山の竹を根うに携りて歸朝の
ちとす 臨尾にあり書見えたり此にこの竹を山玉權況をよみ八百萬神の影向不あり
ともり又同一た右小き像あり石楠を植そり諸夜又夜又女の影向不ありと云
廊門 天井の中央小盡ける龍ありひにうろの壁上に居せる不の十六羅漢等の像ともて特許永叔の筆あり
探雪の両筆あり

寛光堂

後水尾帝震筆

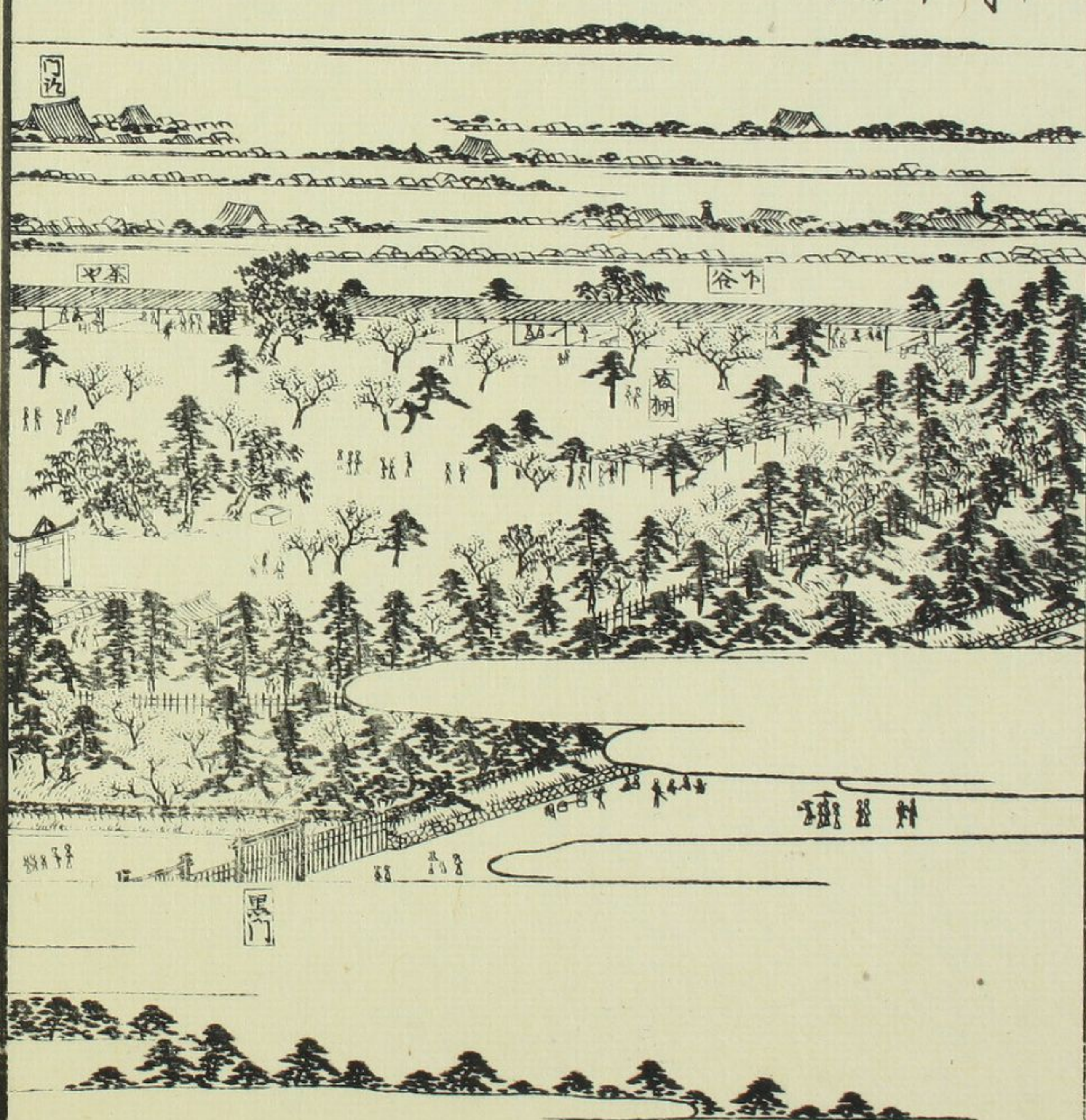
雲水塔 中堂の前の方にあり一切徑を収む前に傳大士と云ひ普賢
宛山慈眼大師 建立 轉輪藏 中堂の前の方にあり一切徑を収む前に傳大士と云ひ普賢
ありと云ひ

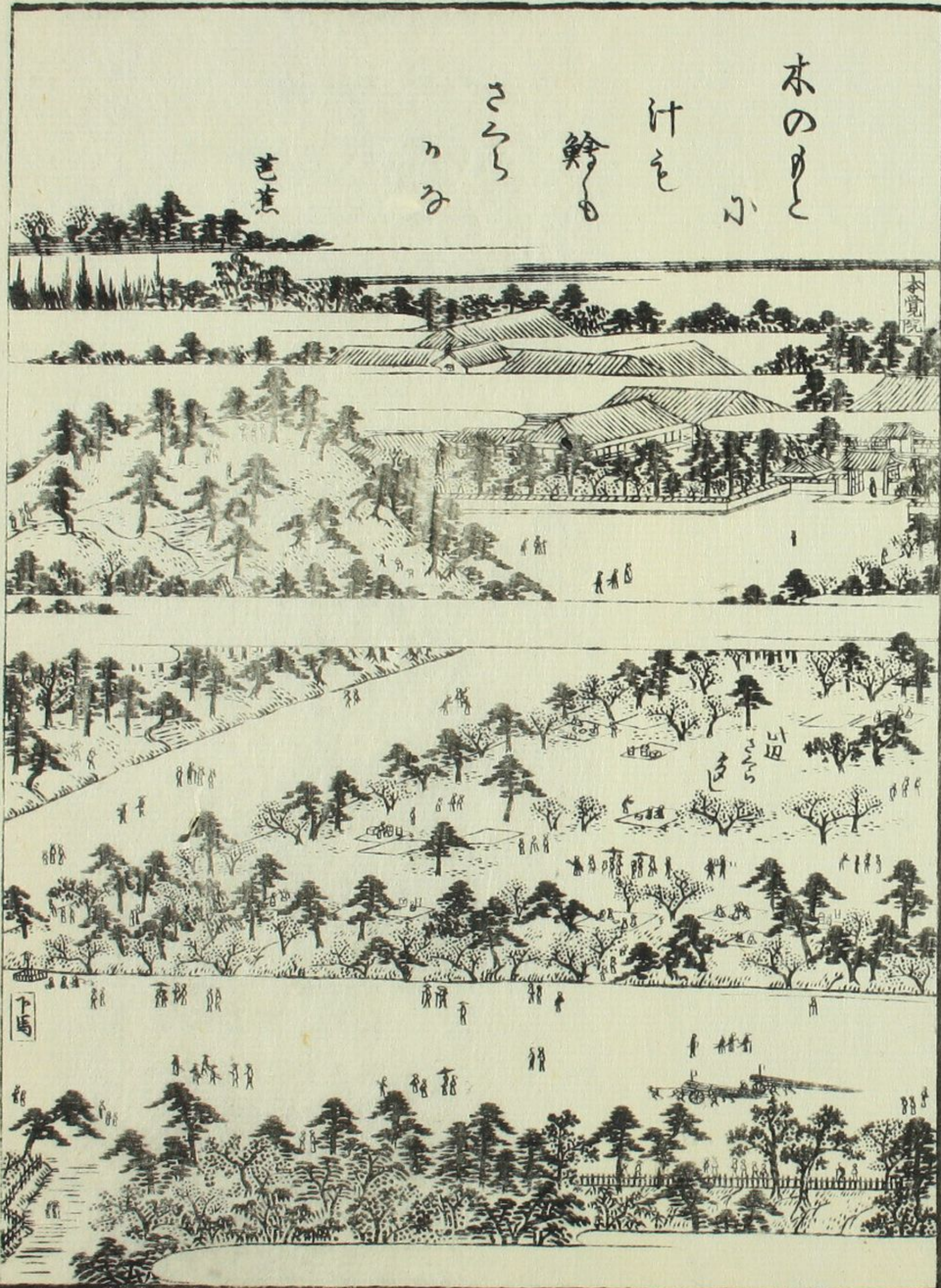
東廠山上陽春衣
 東廠山下背花歸
 回看終日酣歌處
 風起晚來爲雪飛



東廠山寛永寺
 橋ヶ峯
 山王社

山内橋樹寺
 少も此辺と橋ヶ峯
 と昔しをむじ羅山
 先生裁つあふらし
 うさうあふら
 誓事文集ふり





木のりこ

けい

鯨

さくら
りみ

芭蕉

本寛院

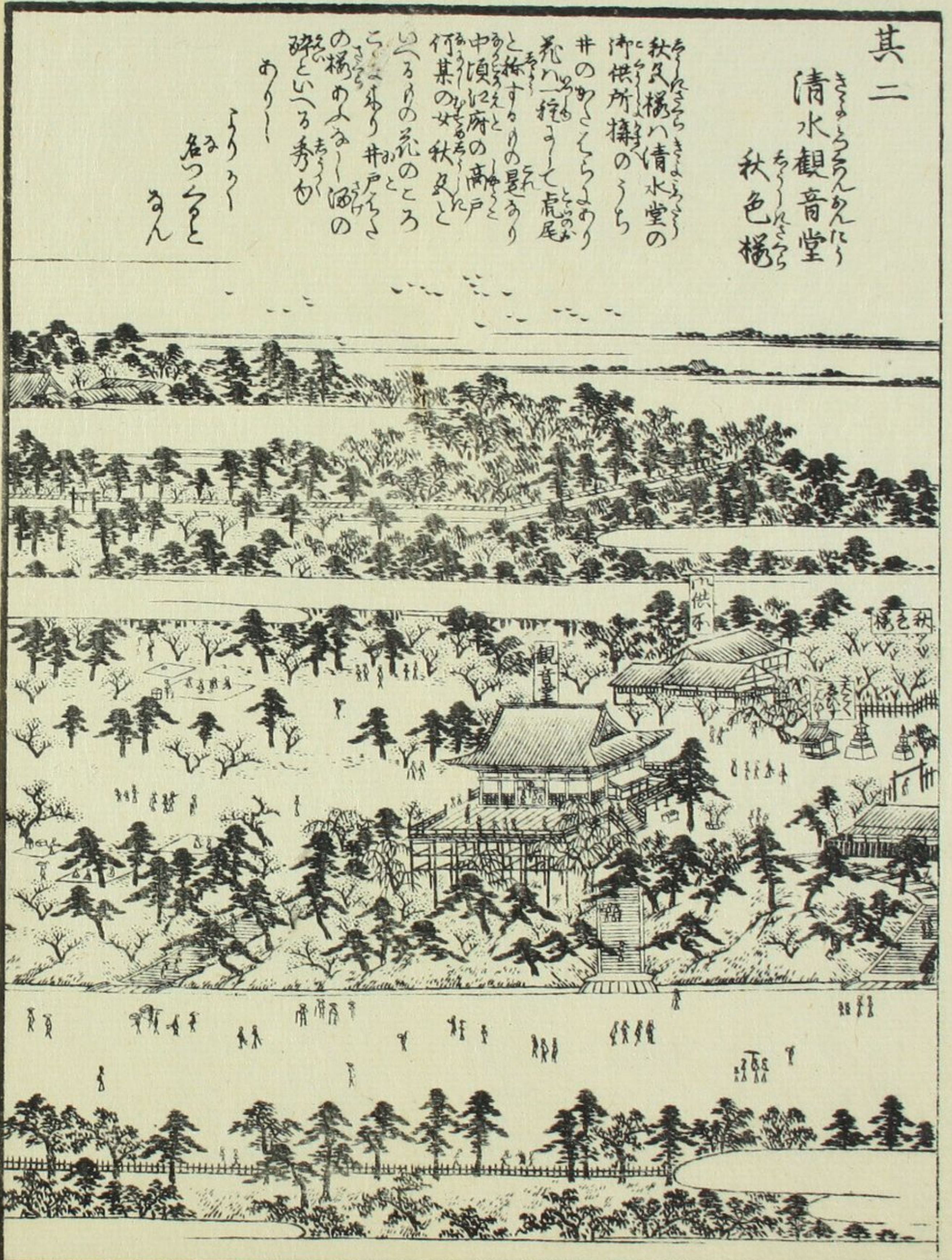
下馬

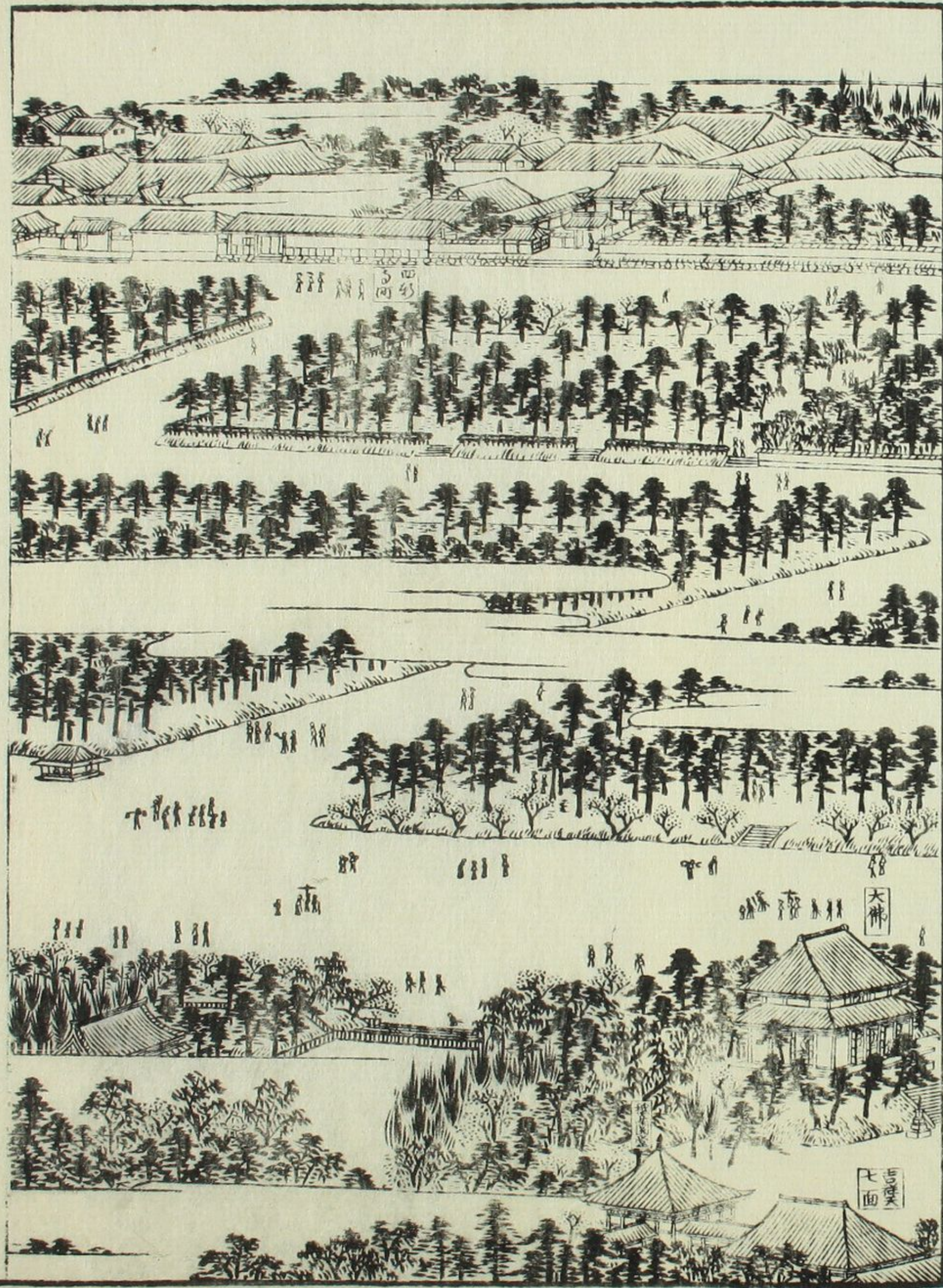
其二

清水観音堂
秋色楊

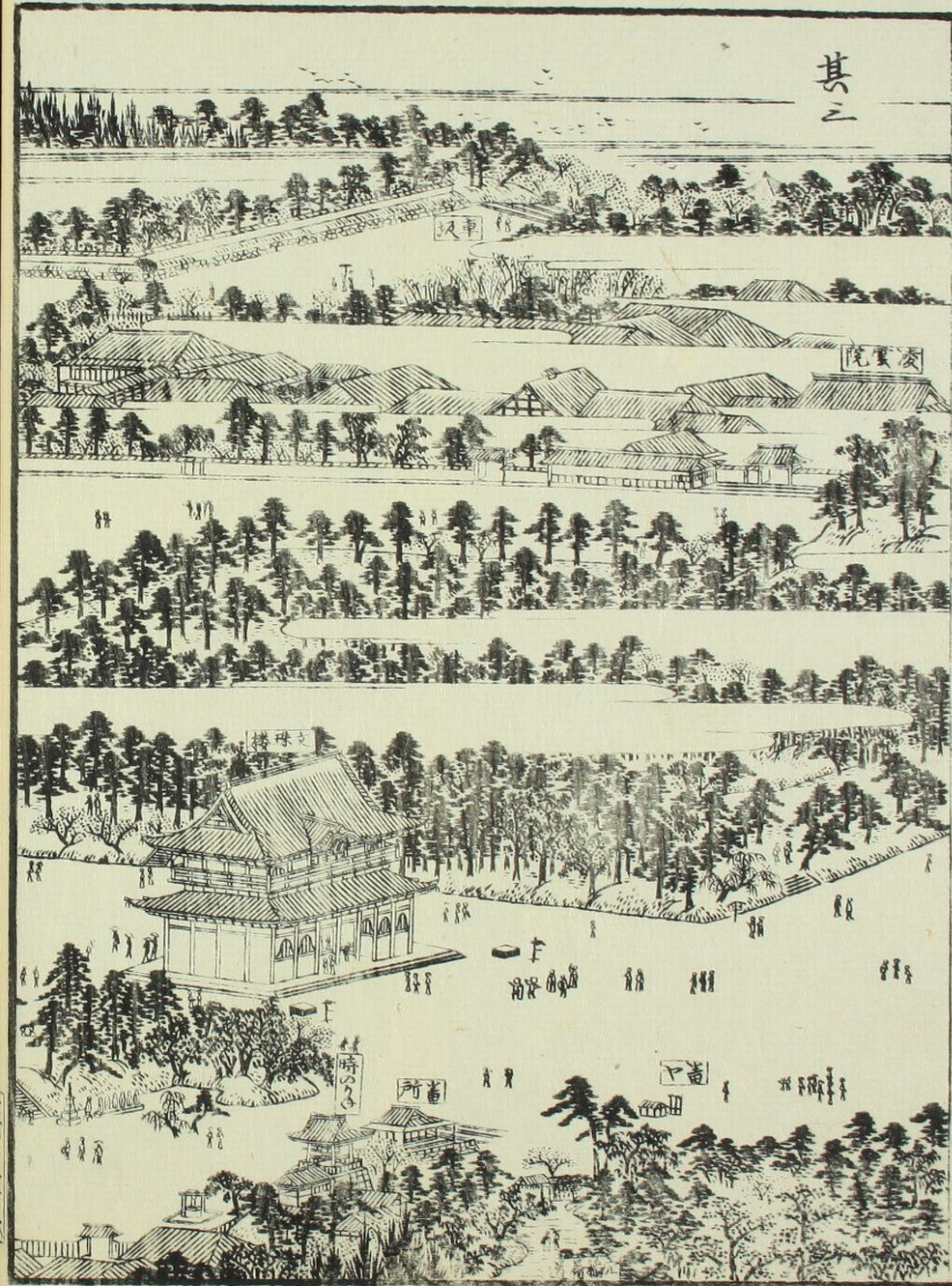
秋及楊の清水堂の
沖世所擲のころ
井のわくころのあり
花の一種うして虎尾
と梅すのりのはあり
中頃江戸の高戸
何某の女秋及と
いふりの花のころ
さくらり井戸の
の橋のふみ海の
跡といふ秀か
のり

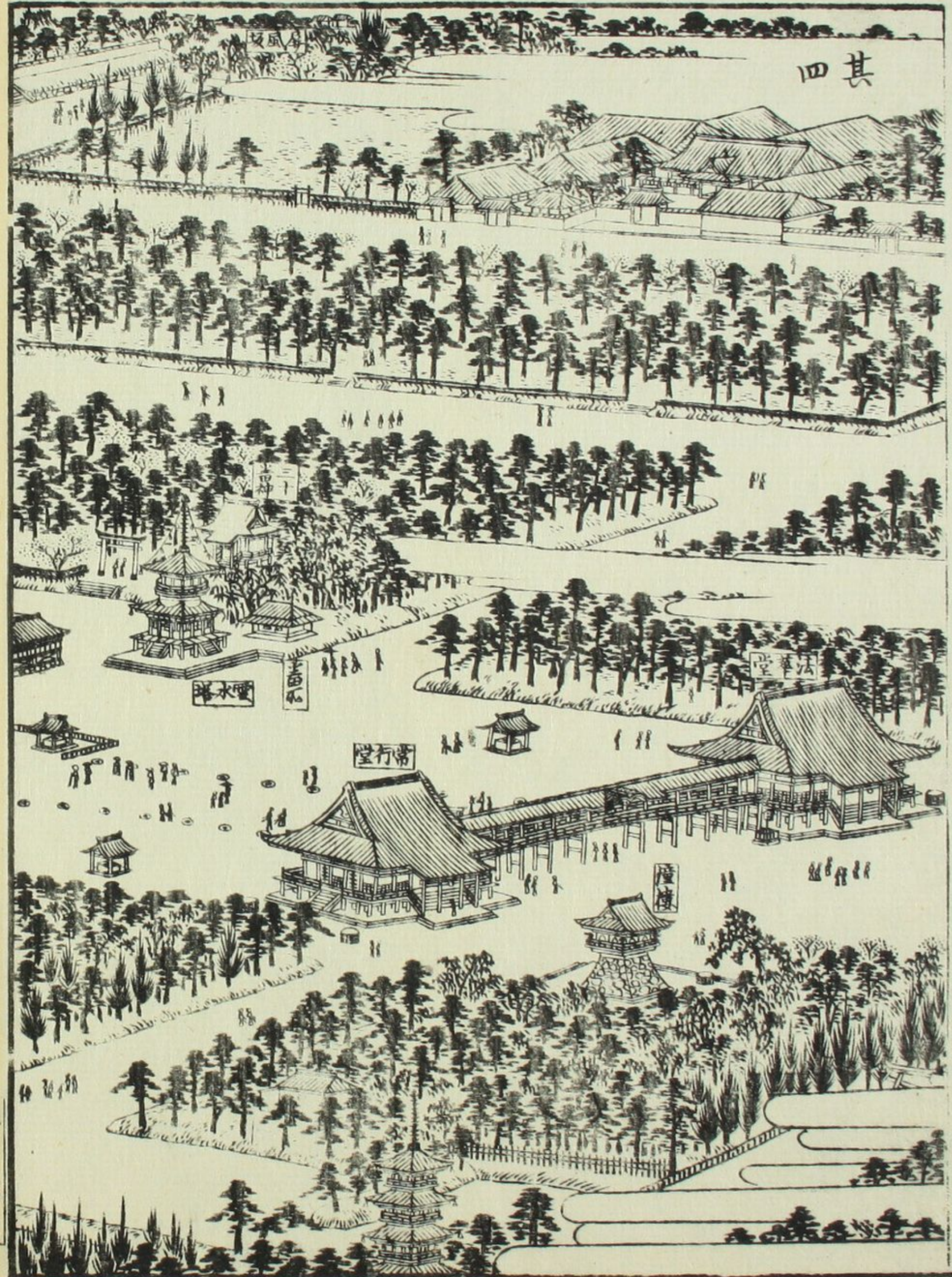
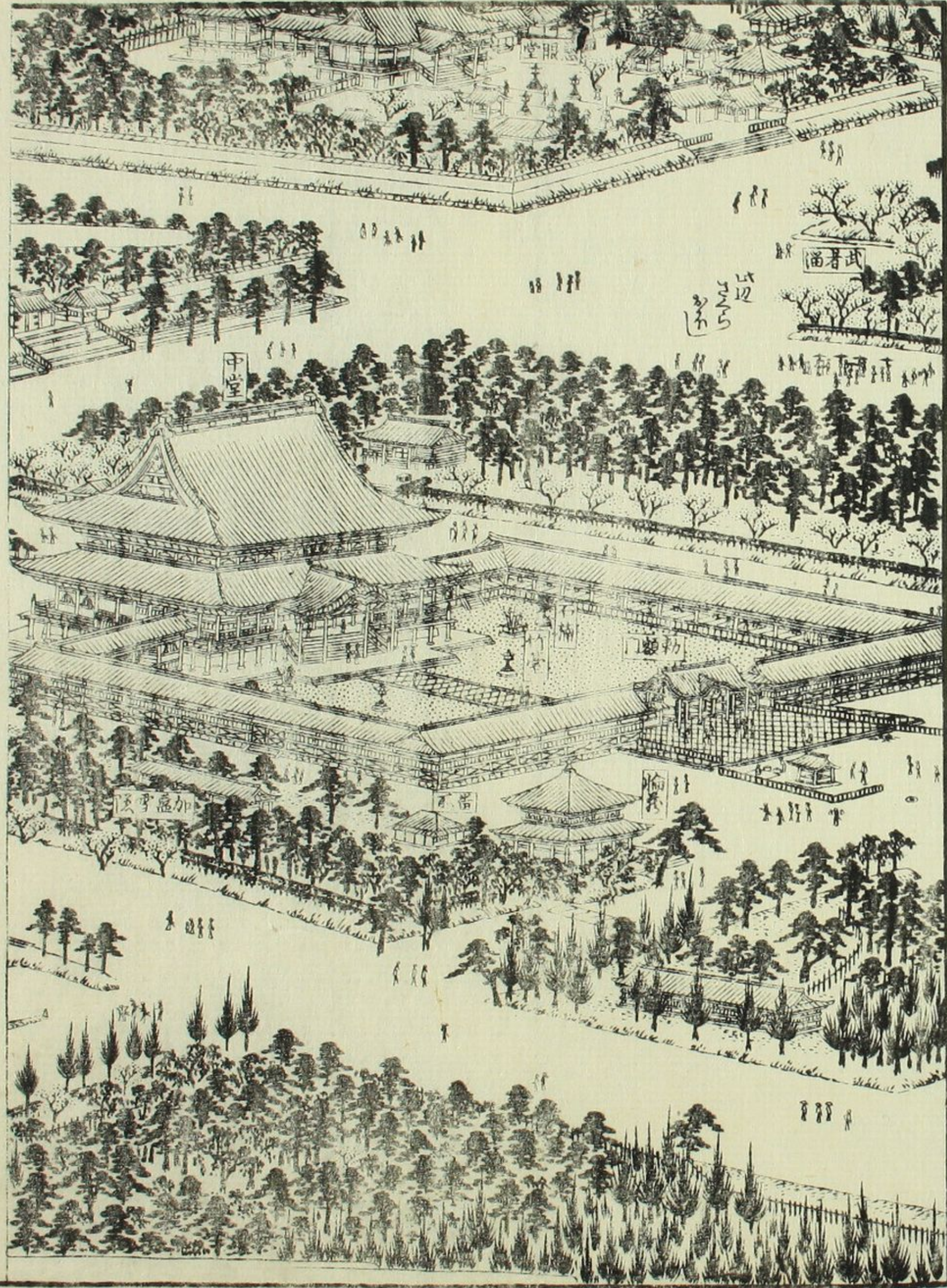
ふりく
名つくと
なん

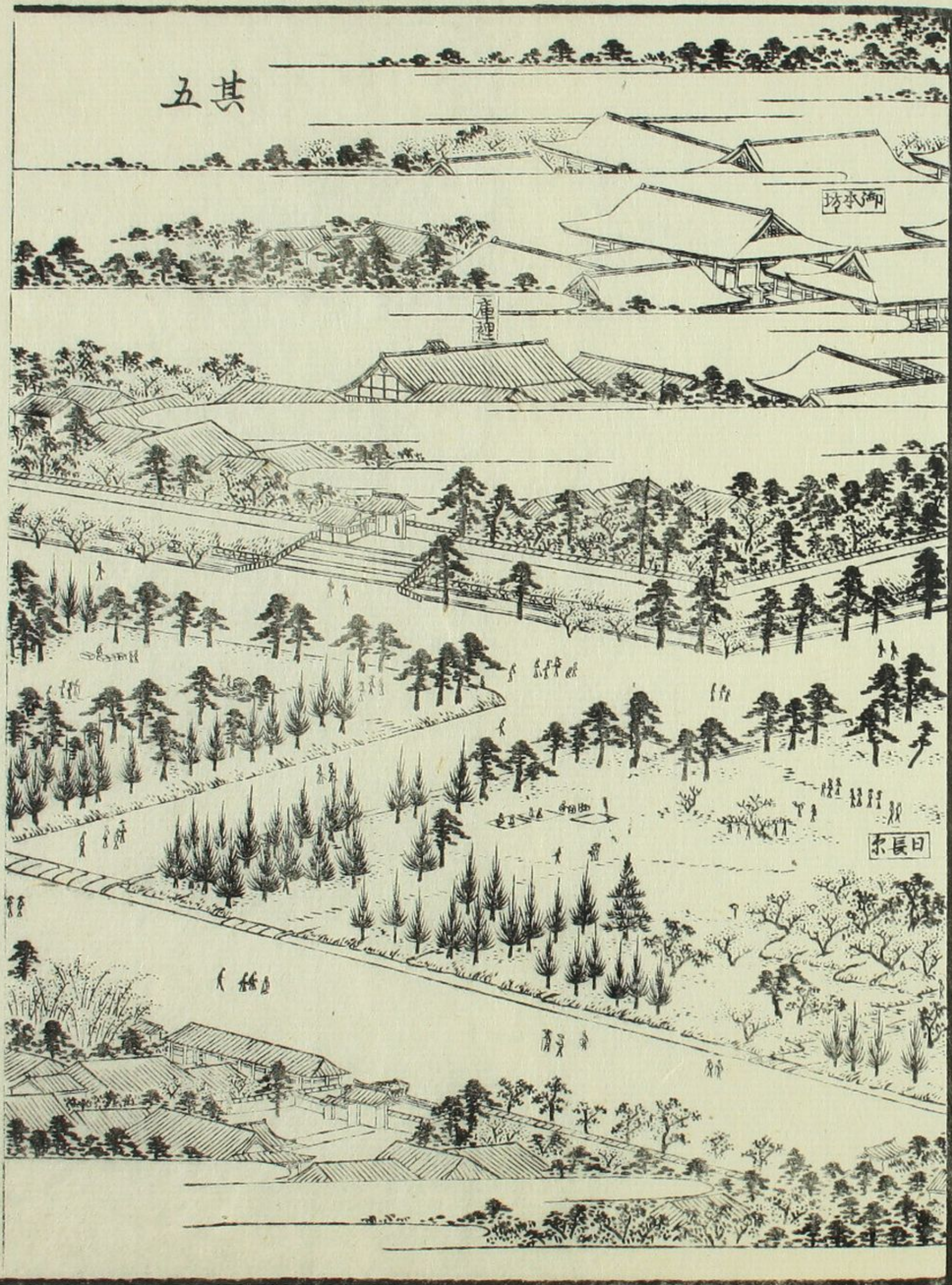




其二







神 不在 東州 德同 陶鑄 聲教 仰祝 國壽 寬永 八龍 集辛 未秋 九月 日倉 侍從 源朝 臣利 勝立 勝鐘

東州 寶池 上方 銀界 茲移 台嶠 過唱 梵唄 靈庇 闕宮 人天 俱拜 壘石 構樓 拘籠 高掛

神威 風乎 銘曰 之大 鳴君 道臣 道唱 而後 和懇 禱之 趣

東照大權現宮 文殊樓の遺跡あり 大石燈籠 一丈二尺 棹石三間 京師南禪寺尾州熱田

大佛殿 同不あり 紫洞より二丈二尺 餘小作 杖迦如來の座像と 尊とす 万治 茲瀧庵空上人の建立にして 府六地蔵の一なり 又 弥勒佛の像 法華經を講ずる 三尊ありて 現世過去未來の三世を表せり 往昔 大明院の宮との洞縁に 白一 堂宇も有り 六兩處に 侵さむと 慈心 弘願と 營建あり 一とす

鯨鐘 同あり 二つあり 牛頭天王社 同あり 當山地主の 丹後直時 此を崇致して 社と造らむと 神 寶光堂 同あり 當山 唐保の項堂宇と建立を 瘡癩の 文殊樓 樓上 文殊菩薩と 安んずる 此其像ハ 奥州 移り せり

額 吉祥閣 大明院宮公辦法親王真筆

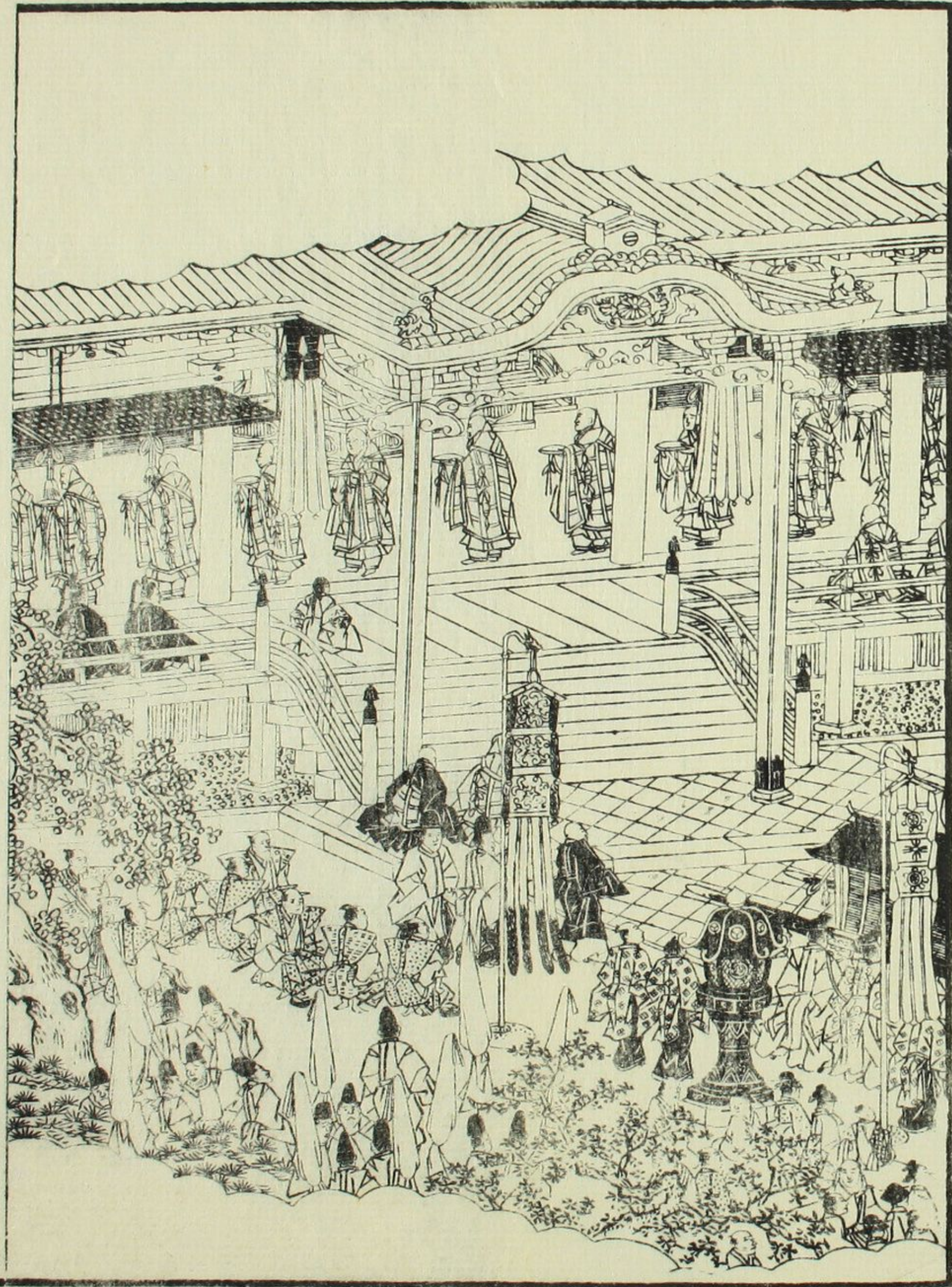
忍岡稻荷祠 文殊樓の左あり 石崖の上 祠あり 左ふ世 俗穴稻荷と号く 當山草創の 記せり 淨雲と 木食淨雲の 寺あり 後 江戶 雀子當社と 淨雲稻荷と 清水平觀音堂 京師清水と 比々 舞臺造り あり 此 地 又 小 橋 多 あり 本 寺 千 手 大 悲 の 斬首の罪 小 處 せら ぐ 付 清水觀音の 加 護 あり たりて 乃 杖 修 小 坊 せ 命 と 助 け たり され 東 鑑 あり 余 の 書 あり 此 寺 を見 せ

山王大權現社 清水堂の南あり 内陣 拜殿 階下 あり 悉く 彫 あり 輪 奘 玲 瓏 人の 勸學寮 俗 軒 長 屋 と 号 池 の 端 錦 袋 圓 の 元 祖 翁 僧 都 天 和 二 年 小 建 立 せ 四 方 小 列 居 所 當 山 の 講 堂 日 々 小 三 教 の 書 と 講 ず 急 修 行 今 觀 音 堂 經 藏 天 和 四 年 小 建 立 せ 中 小 一 代 慈 經 と 收 め 晴 陽 興 衛 禪 刹 の 冥 山 如 定 徑 經 山 寺 あり 齋 菜 あり

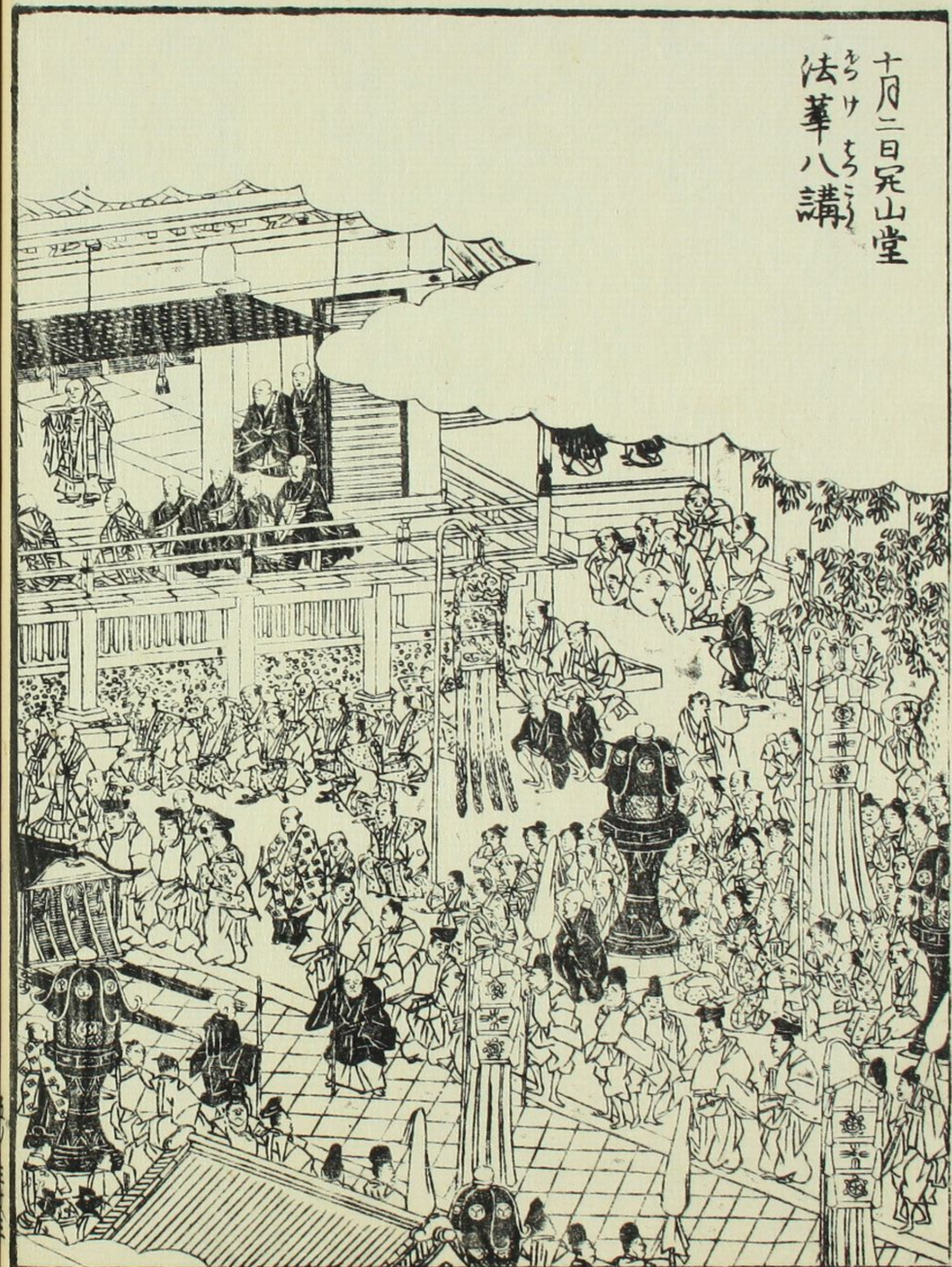
東叡山
勸学寮圖



三聖人の古銅像と教を屋上より極底に至るまで悉く銅葉とて包裏せし其四方に石
 疊とてこれと築き繞らんと又後院の傍にその方角を戒師とて味禪師授号師前松泉
 寺法石大和尚あり二親養父母ありひは自得居士の石塔とて造立し傍に佛如の石像
 あり同石壁の外小道の碑とて建たり又八黄檗言泉和尚これを撰と
 武州東叡山勸学寮院了翁僧都道行碑記
 自古法中沙門播名而德於天下者豈苟然哉
 不皆是以菩薩乘願下人成於世無上無等至真度
 萬行利天下使未易以言也若今東門方發
 聖域此妙行實其人欽不自其脫儀白為沙叅露不
 講院了翁行善者豈其人欽不自其脫儀白為沙叅露不
 大心行善者豈其人欽不自其脫儀白為沙叅露不
 親近黃檗開山隱老及吾唐諸識僧食風宿露正
 以己憂唯憂佛法不興於世之知僧俗而能
 盡諸佛祖之憂佛法不興於世之知僧俗而能
 中築徑藏以時三藏乃武興而世之知僧俗而能
 內奉三聖像乃明戒師祝髮及自親益古銅像也
 藏之後塔塚其右立其戒師祝髮及自親益古銅像也
 本院僧衆九百八十人此藏前之輩及其功績浩大以
 示不朽講堂中西有文庫如藏老日二教本邦書籍又
 別設一講堂中西有文庫如藏老日二教本邦書籍又
 人聽者知三聖設教雖少而利善世則一矣其國
 前有方丈院之聖四教釋迦如像而講教本邦書籍又
 其有餘丈福之屬周有寮舍凡百餘間以諸方學
 子其備金一安身學道無風雨之憂既
 不預而衆可安身學道無風雨之憂既



十月二日 兜山堂
法華八講



契りてきてたれは、其れをくさよまのひの園の處のまごりえ 堯惠
圓周雜記
まのふれとつる取よて松原のありけふうけよ

霜の後あらわれより時雨をい志のひの思れれもひの 通貞唯后

二王門 明和九年の圓縁は焦土となりて 東嶽山 大明院宮の辨法親王其筆

冠山堂 扇岡坂の上あり冠山慈眼大師の影堂なり世俗慈眼堂とあり毎年十月言座主法親王行導師として洋筆坊より筆興をふくらせり一山の僧徒は華ハ備

修行あり

柳冠山慈眼大師諱ハ天海南光坊と號す奥列會津郡高田郷の人

姓ハ三浦氏あり 是利法住院義澄の子とも或ハ蓋名修理を夫盛高の二孫ともいひ

父ハ其美と名す事と傳す これと師在りて其俗姓を因ひたり空門に入れり 父母嗣れく月天子は禱り其母奇花を吞と食

見て娠むと云ふ九月とて降誕は初より葷肉と食せず清朗

中して聰敏化は辨なり十一歳にして辨法法師と投して祝髪一天文

年中始て嶽山に登り神藏の實全よす之えて台教の深青坊傳

俱舎性相と園珠の尊實よ學ひ復南都に往て法相三論等

の教法を學ひ成重といひて逢て神道の奥儀を充足利の學校

小遊ひて孔老の書と讀道器といひて小肩擗巖と學ふ後郷に歸り會津

の大寧禪師よあひて教外別傳の旨と發明し善悲相尚不碧巖

集と總一百則の話頭と會得ハ其頃甲斐の信玄台教と教ひ

ある時諸師と請いて論義せしめ天海と講主とす衆皆辭理の奇妙を

感稱んといふ是よりして名を朝野よ志らふ後常別江戸崎不動院に

住す時小文祿二年其大は早民られて師として請雨の法を傳

せし其時神女あつて五銛杵と授く師高田浦の深淵に臨むて

法を傳し其の膏雨勿忽注て百穀大に登る 彼五銛杵今猶ほて 又慶長

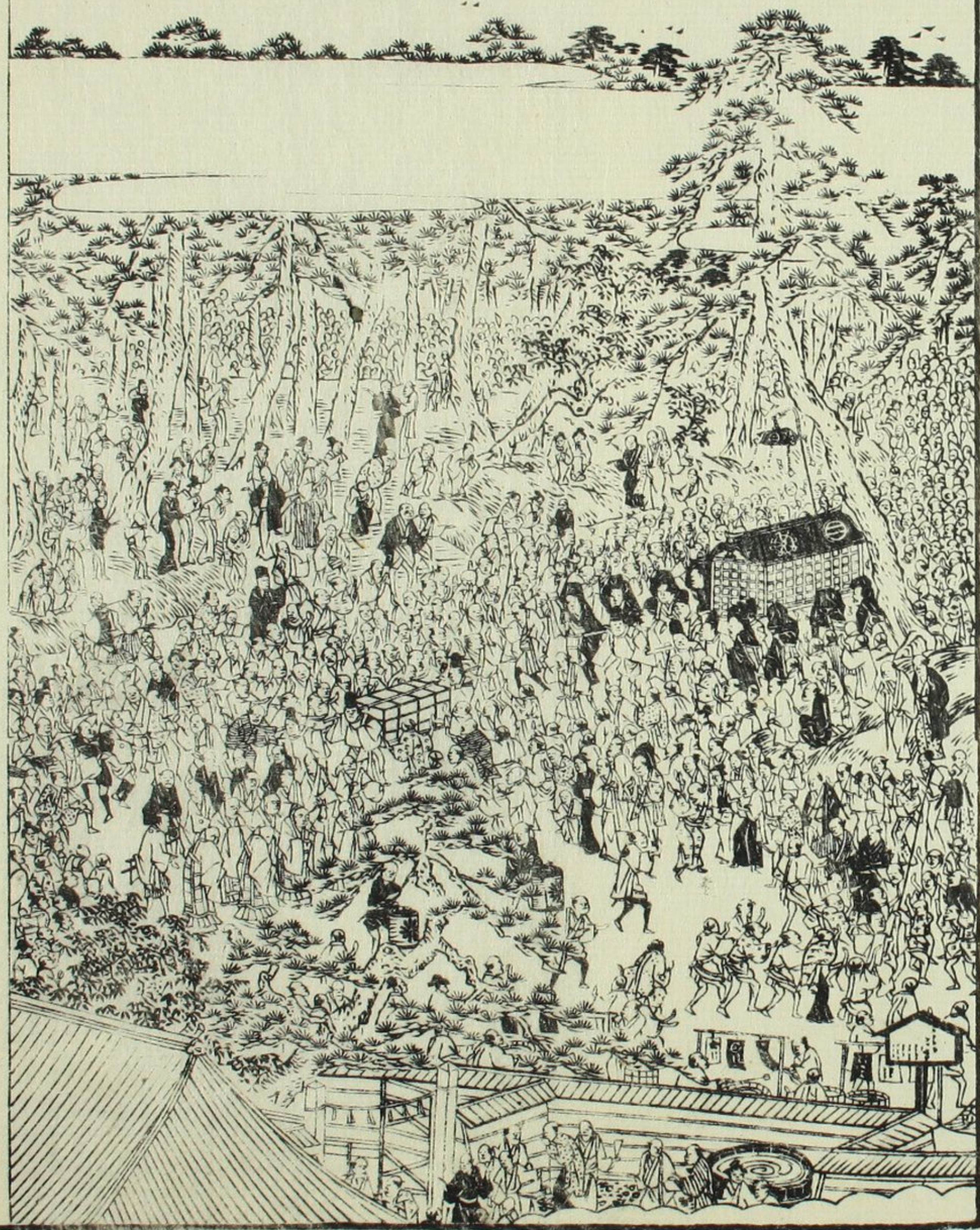
四年武刃仙波の喜多院に住す同八年下野園長沼の宗光寺に

移る同十二年

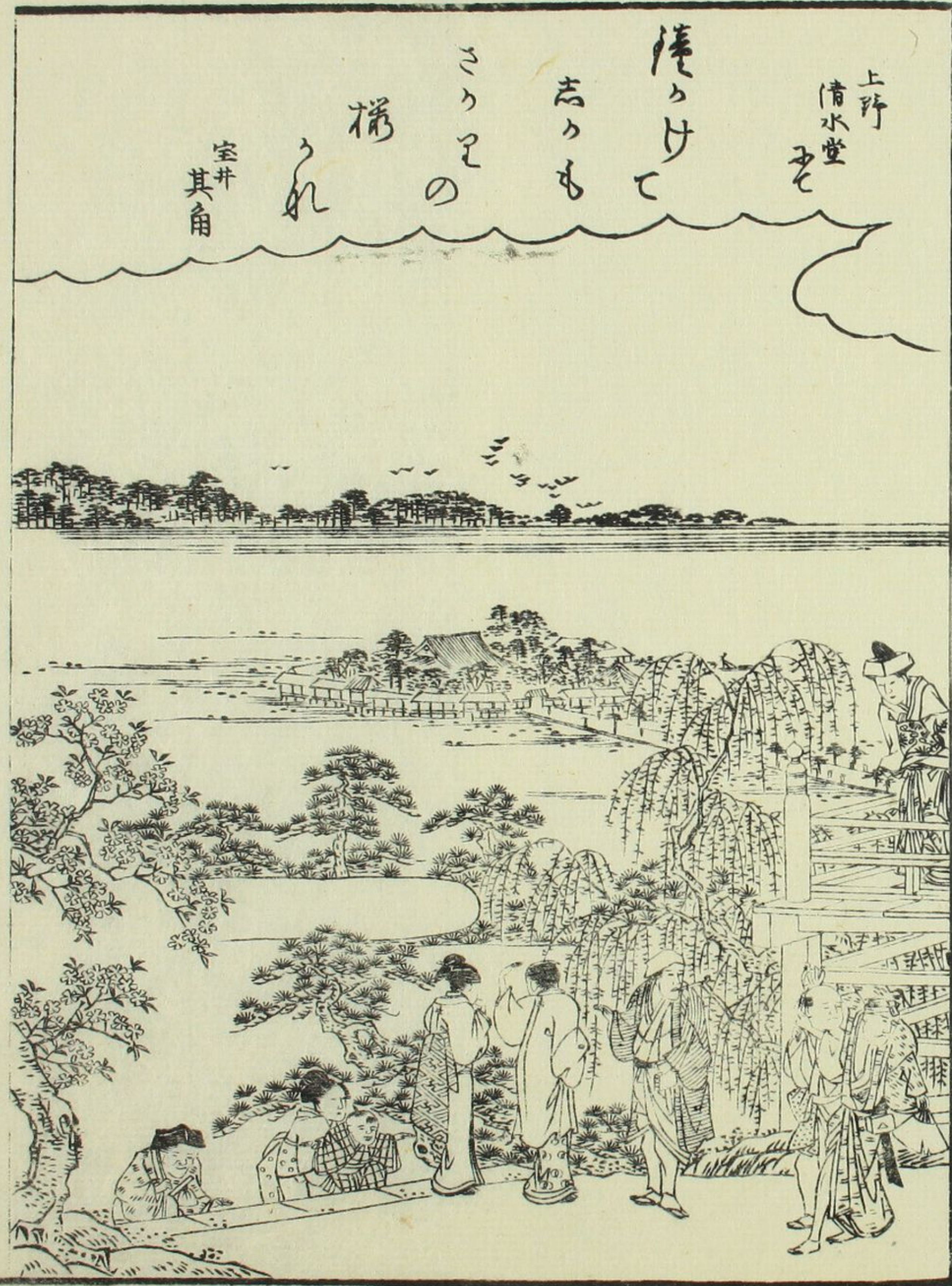
神君 命して嶽岳の南光坊に任持せしめ再び 命して喜多院

に歸り居らしむ同十四年山門に登り法華大會を行はく時よ

座遷師大両



日毎の海日、西大師の
 所影を、院の院、進坐
 おし、是を、将迎
 奉らんとして、江府を、道
 者、群衆、一、道、子
 溢る、実に、此地、熱鬧
 の中、最も、前、か、る



重職の勅許を蒙り新題者の精義嚴重はたとわたり
上皇 後陽成院 度々召ありて法要を詔問したるに美對詳明かふよ
依て叡感儀々々権僧正に擢られ御まのり侍衣燕尾等を賜ひ
少科の昆沙門堂の門室に附せらるる又宸翰を下したるに権と轉して正
小任す同十七年

神君河弒し狩したる折々仙波に立寄せたりて殿堂を修營せし
む莊園と寄せられたる同十八年復命を兼りて日光山に居る
神君 薨去れ後其遺命を奉りて葬せし能山に宮と元和三年尊
靈以日光山に遷坐せし奉る是往古の大職冠の例に倣ふ則山王
習合の神に鎮たてたり勅を奉りて

東照大権現と號し奉る 大樹 台徳公 亦神君ととせられたる
優寵したるひる其先元和二年大僧正に任せられ 先帝 正親町院
二十五の御遠忌にも侍導師に請はたり后後寛永二年

大樹 大樹公 命して東叡山と廟々し師とし一尾山とす又上皇の

二宮と 守護親王 日光山の清門主と請せしひ師の侍費子に彼は

たす其後上野國新田庄世良田山長樂寺を賜ひ

東照大権現の神祠以下の諸堂と造立あり亦同く二十年の秋

僧正微疾と示す時 大樹 大樹公 とよひ紀の曲相 頼宣公 駕と

屈し疾と向たり僧正遂に遺語五則と書け 大樹書二探函に命し

たすひて其頂相と写さしむ一日唯識論と因に忽し文殊菩薩の來

現を見る則其時至ると志り端座合掌して遷化す時寛永二十年

十月二日をり 東國高僧傳に寛永十九年十月二日化寂とあり 紫雲天花の瑞

あり影堂と當山をひし日光天台の三山に建る當山慈眼堂其を

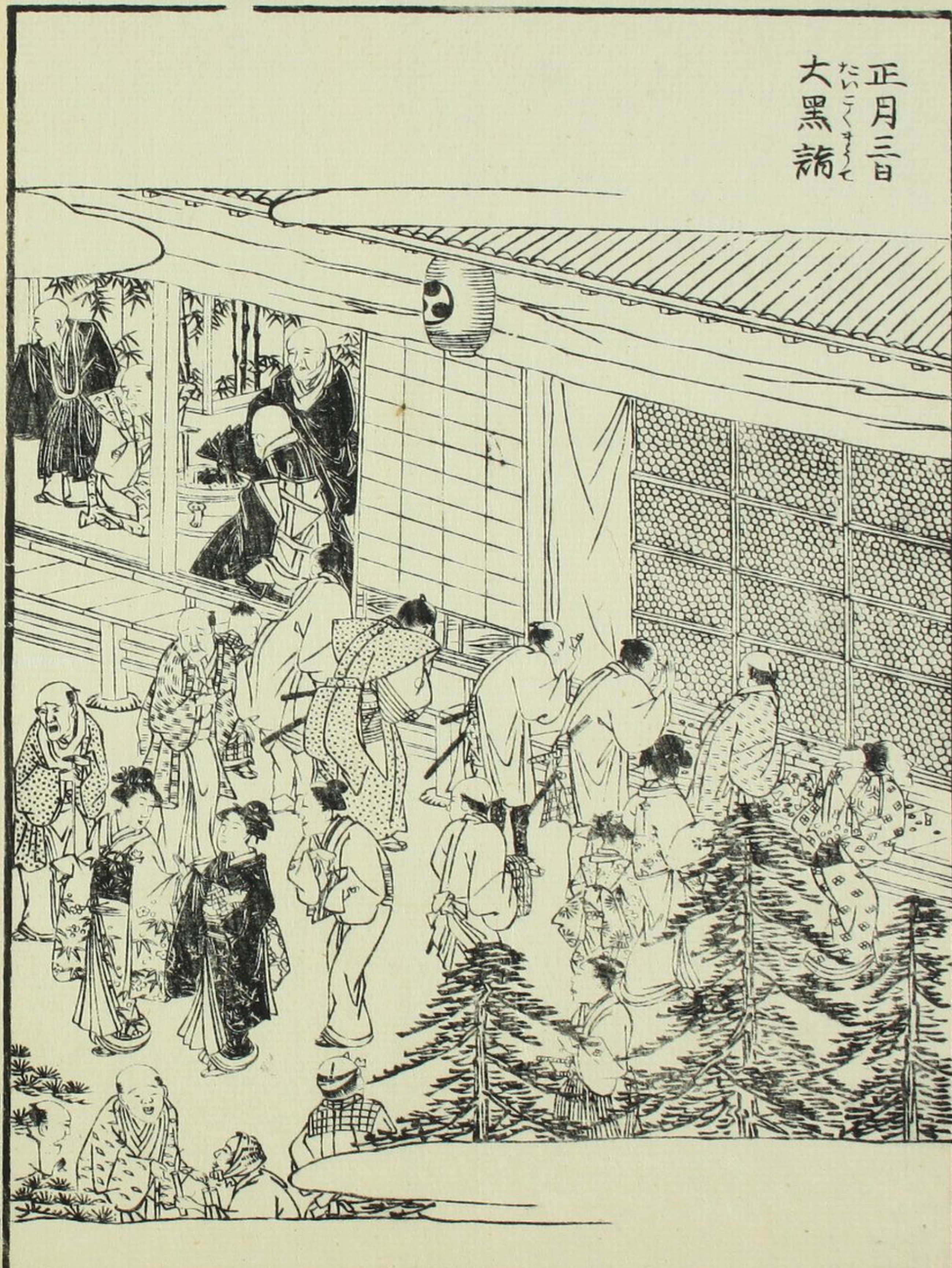
慶安元年慈眼大師と謚號の詔勅を下したるに 以上西大師縁起とよみ東

慈惠大師 諱ハ良源江の浅井郡の人父ハ本津氏母ハ物部氏あり

延喜十二年壬申九月三日に生る 父母子あそと名を觀音とせりて諱る 十二歳

觀音九とをほくとあり

正月三日
大黒詣



毎歳正月三日、都下の
若人、東叡山護國院の
大黒天（ヤマト）此作影ハ
本、信實筆ナリ
世々靈驗著し、此日供物
の儀、餅と湯ふひたりて
衆僧の華ふあさ俗
是とめて作福の
湯と
子



とこのつと数年よりありて今老病をうけんとす
 心も持たてまつるとそまもひつけり
 茲身世ふあらん後のまもともいふ心とゆれとも思ふ
 栄雅

慈眼大師真影 狩野探幽筆

慈眼大師の真影は慈恵大師の肖像と共に當山院々傾きて一箇月ほど執筆
 年この十月の御幸は遷坐あり

大悲藏 慈眼大師の龕のまに安坐す諸人右山福とト云々と指しこと
 佛祖 統紀曰 大士 籤天竺百籤 越圓通百三十籤
 以支 吉凶 其應如響相傳 是大士化身所述云云

柳當山の江戸第一の橋花の名勝として一山花はあふくと云ふあり
 台命よりて和列吉野山の地勢を摸し植させらるるなみ花は速
 あり遅ありて山上山下盛とりてり弥生の花蓋は都鄙の老若貴

とれく賤とれく日毎み袖と連てこは群遊し花のそちみ尺寸の地を
 争ふて帷幕以張延席と設く詩歌管絃ハ鶯聲み和し錦衣繡裳ハ
 花影は映し愛玩賞咏日の暮とあらん

慈雲山瑞林寺 上野清水門の外武三丁北の方みあり日蓮宗よりて

螢澤

谷中宗林寺の境内
 あり又宗林寺の
 池とも螢と号し
 すこ此辺の光り
 依り勝れそり

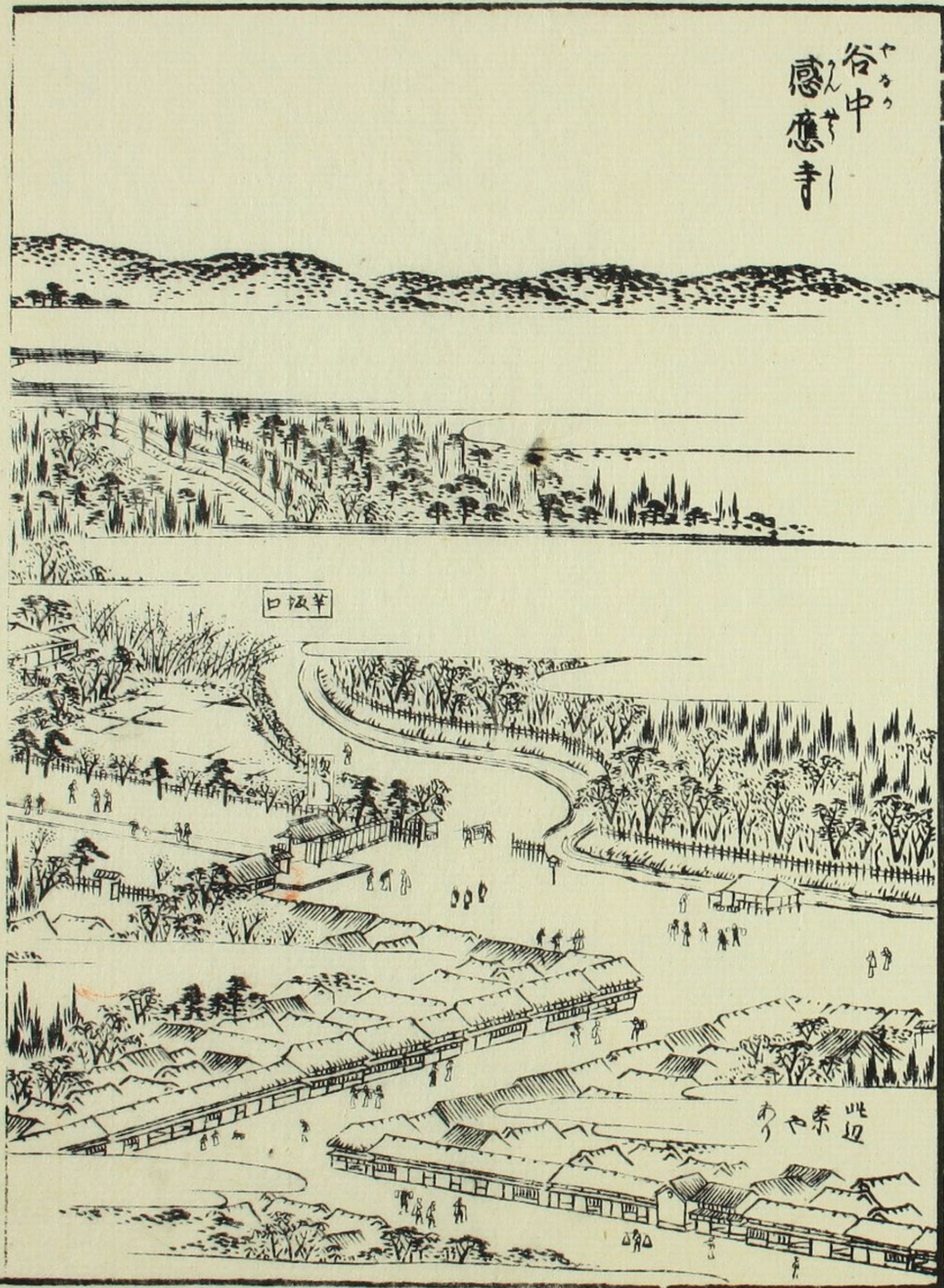
草地茶と

落る

花

芭蕉

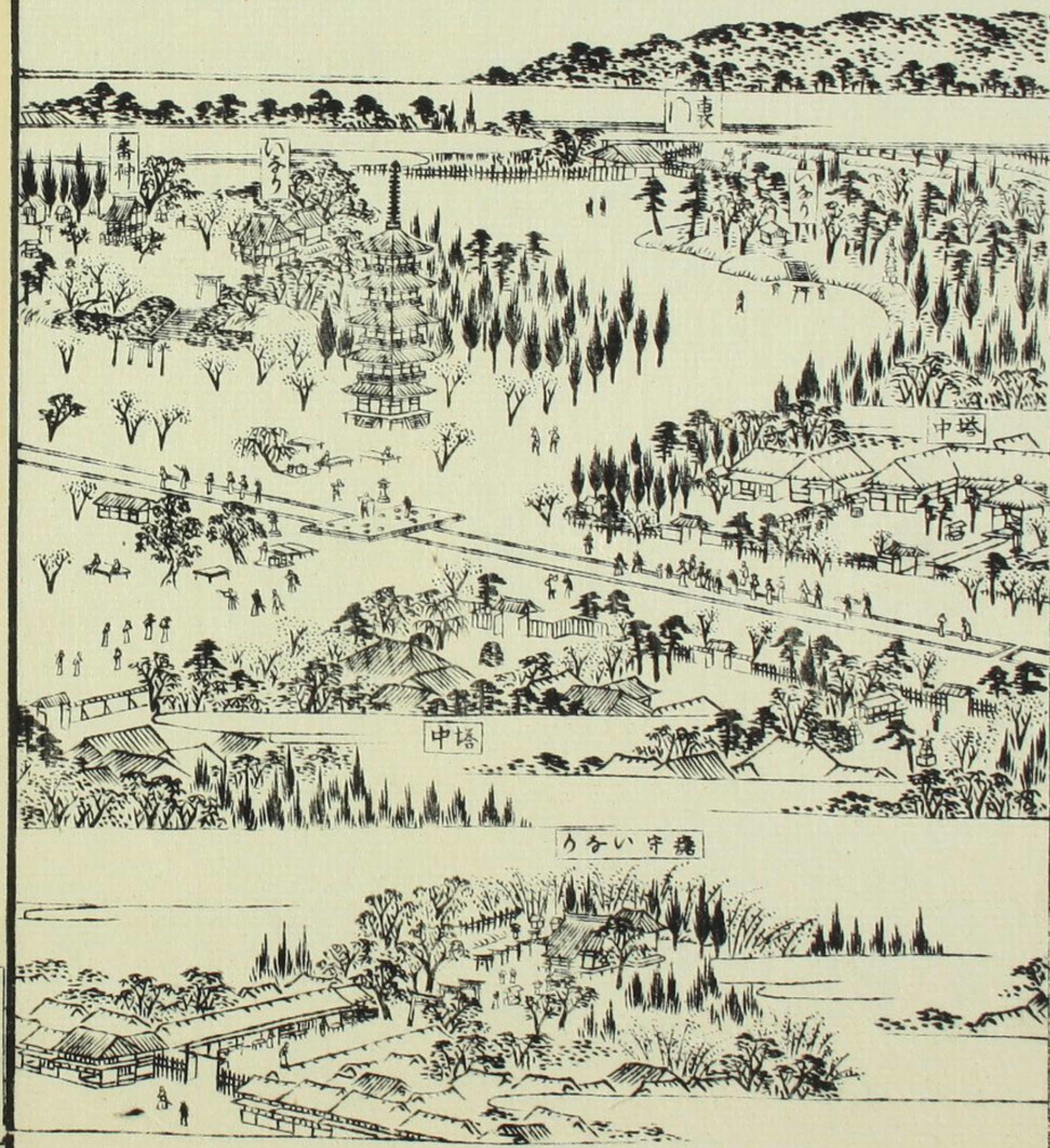
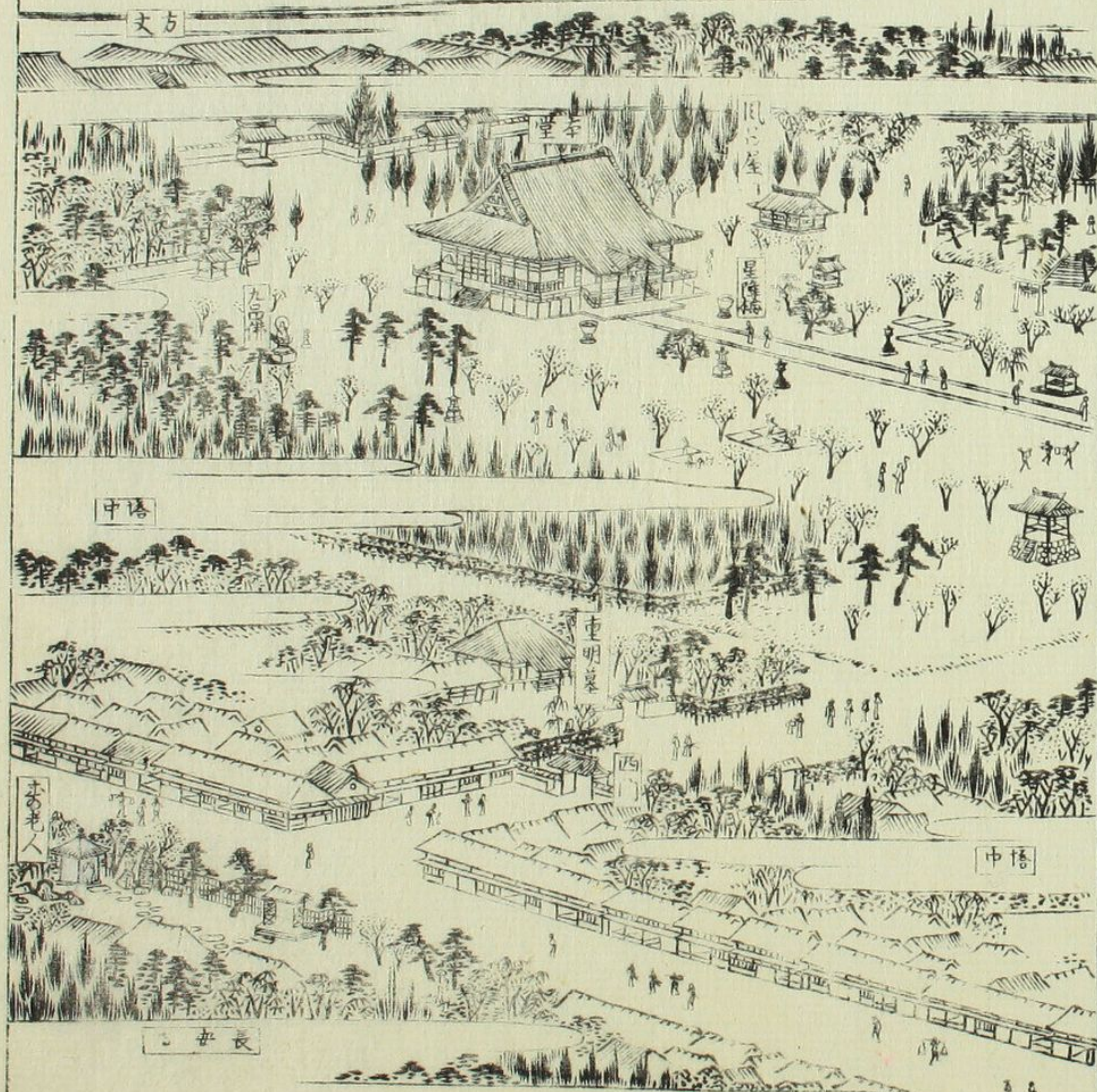


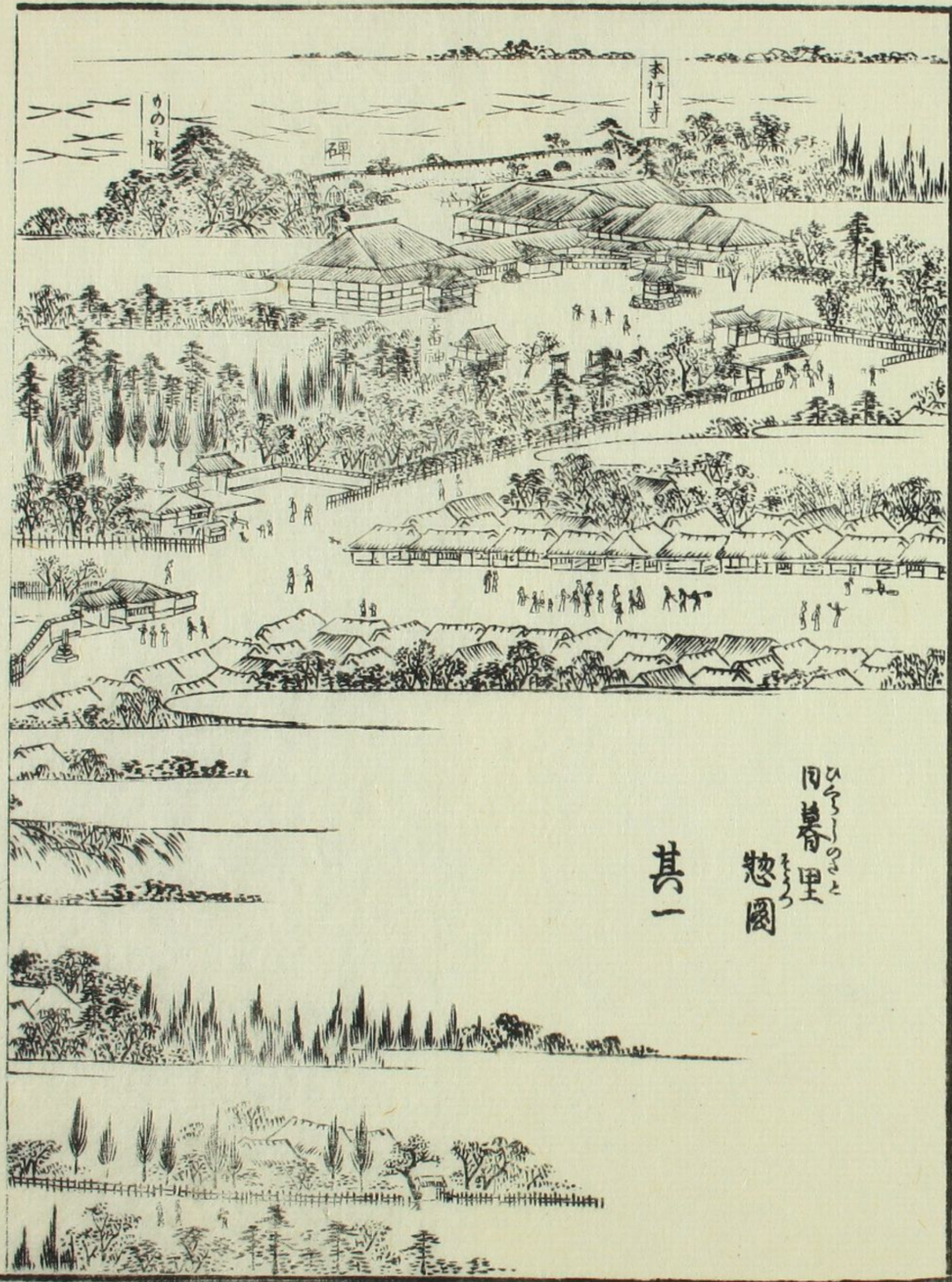


谷中
感應寺

甲子身延山の觸頭江戸三箇寺の一なり元山ハ奉山十七世慈雲院日新上人
 天正十九年れ草創なり奉尊大六の釋迦如来ハ延宝五年れ田原下
 ろひて今侍着と有り存せり
 長耀山感應寺 上野谷中門の外あり天台宗より奉尊ハ傳教大師
 の作の毘沙門天と安置ハ當寺始ハ日蓮宗より宗祖上人と元山と日長
 上人中興ありて中々浦一宗の寺院たり元禄年中故ありて台宗に
 改られ爾より後東叡山ハ属ハ其時大明院宮の淨願よりりて叡山
 横川ハあり傳教大師の作の毘沙門天の像とて移奉尊と
 せらる京師鞍馬山の毘沙門堂ハ比叡の乾母當りて佛法守護の道場を
 れハ當寺も東叡山の乾母當と以て鞍馬寺よりせらるるとり境内
 檜枕の二瓦ありて春時燦燦をり
 五層塔 當寺中興日長上人建立あり一ノ明和九年の火災ハ焦土とされり仍て
 寛政の今再建してより後せり
 長久山奉行寺 同取小の通あり日蓮宗より元山ハ日玄上人六永

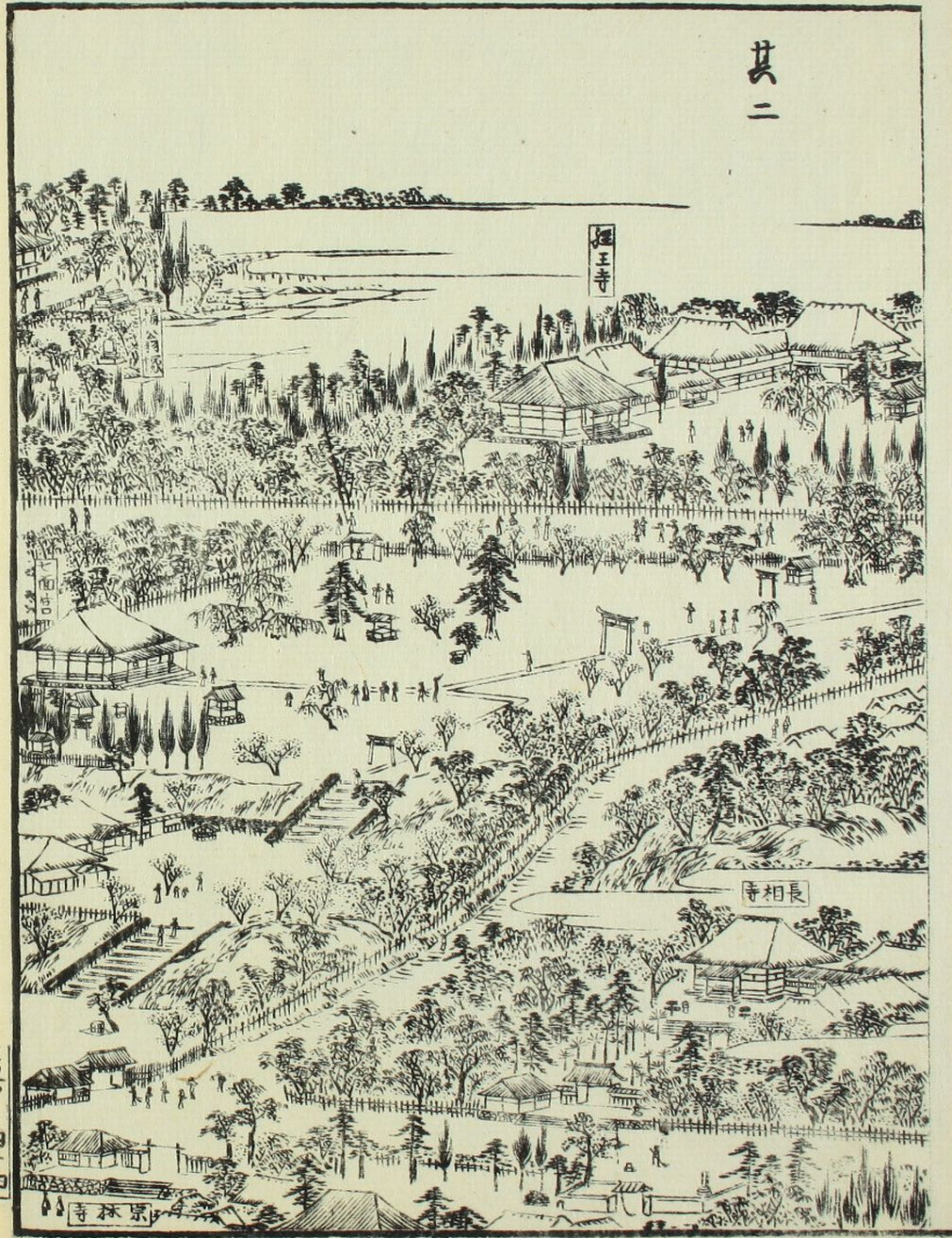
其一





灌叔勝而之二天扇孫名得其攝丘盡百丘則思奚里道
 增氏乘鎮材世下谷父持斯祀之與爲有唯太太名曰灌
 脩之西之專屬戰少道資丘也所山木餘址田田道灌丘
 德有毛正奇管爭恢真官蓋寺在皆黍年耳氏氏灌太寺
 信者二其兵領諸廓名左不與而用閱于有保無忘其氏本
 以皆總封濶上國有資衛畿群道其壘今之郭之惠之行
 懷其諸壇之枚瓜大清門得屏灌號壞矣叔自遺而也號在
 初力城險要氏裂志以大矣攝之名臺相傳里而在寺半東
 附也聞其長府各博永夫可遷曾矣圯傳里而在寺半東
 至既風走祿中據波亨道不於孫寺彷彿昔人在寺半東
 敵而震集二推其經四灌謂斯今舊徨太之乃西里都
 國列陷每道黨史年其奇里懸在不田思其北人郭
 諸界降與戊灌送善士號也者河谷忍氏太存有思北筑
 將寧者鄰寅贍爲兵子源誓錄虞中去既田候山太寺波
 皆肅不國城智脣淡生光諸室世太丘里也之曰氏丘石
 謂百絕戰武豪齒明道祿譜永世相田其人自址道也曰正
 彼姓大利列瀟道畫灌類牒中相田其址過有也灌里道
 專院半在江有真策於政太也美氏址過有也灌里道
 爲眼爲以戸文道是相十田遷以臺焉其丘故蓋人灌撰
 德道上寡焉武灌時別世氏則守屏故墟二無山奚丘

六年及草創以往古八右田道灌の建ちたりといへり當寺庭中道灌
 作候塚と稱するものあり



其二



根成院



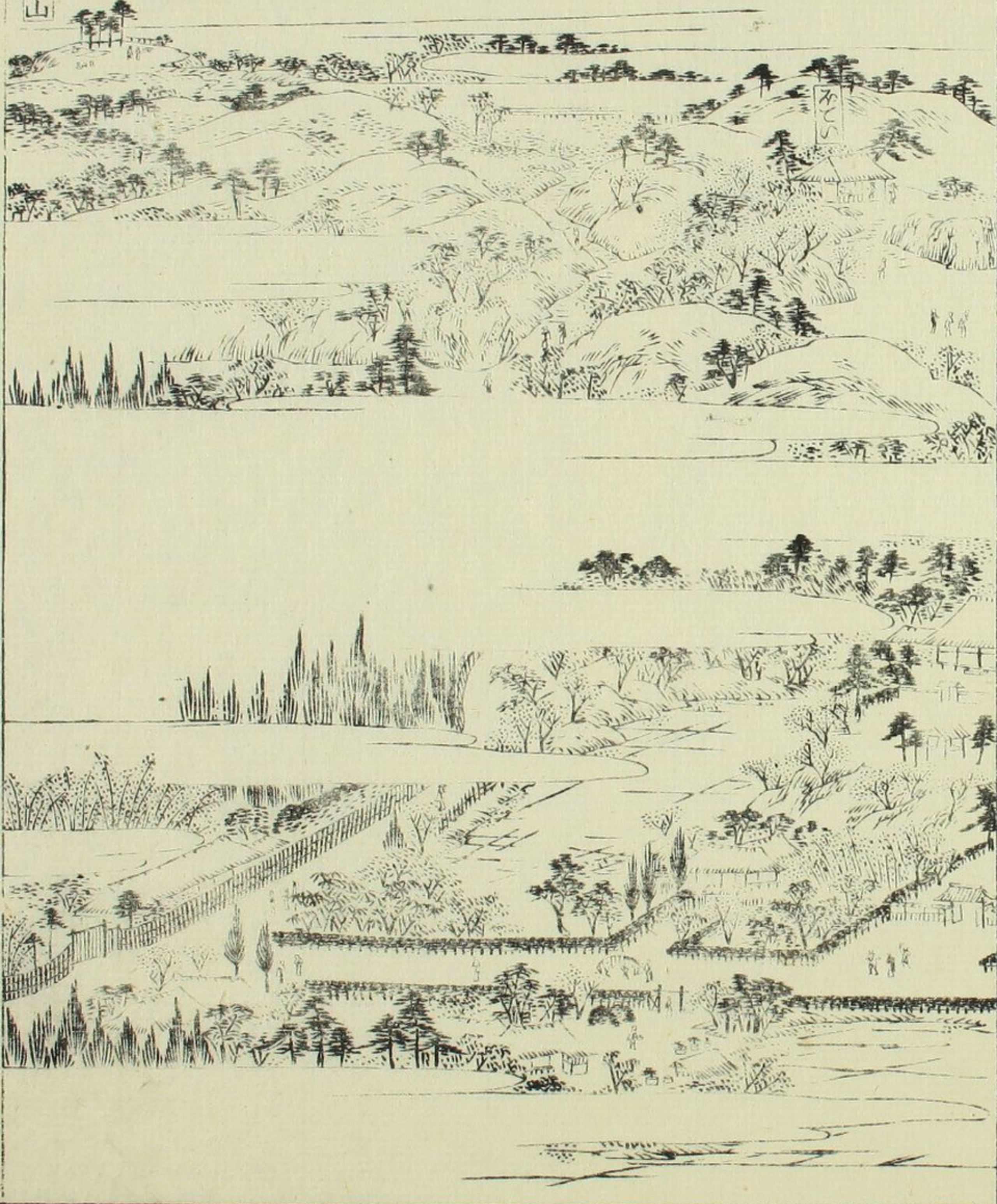
其

淨光寺

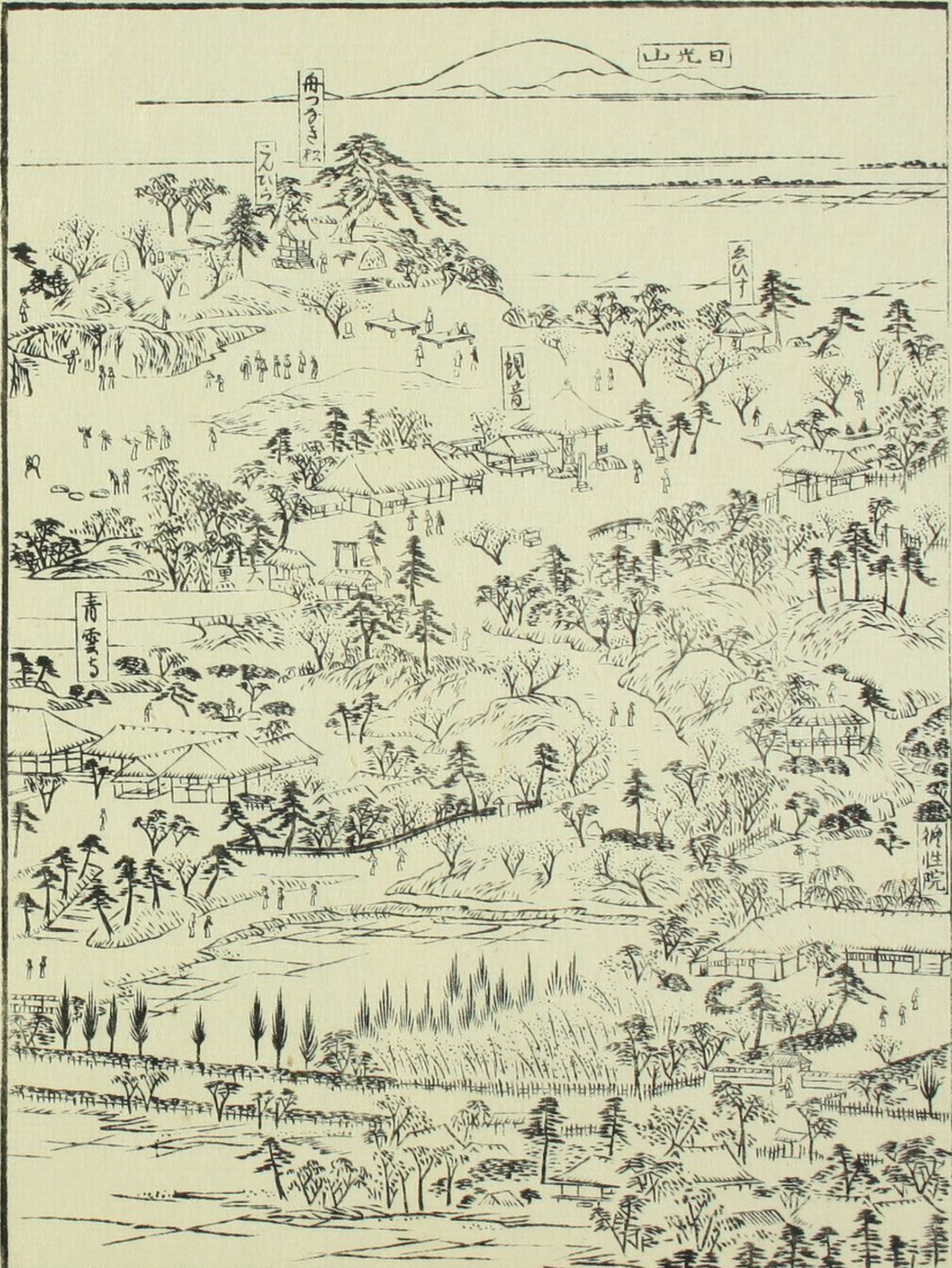
御腰樹所

道隆山

其
二



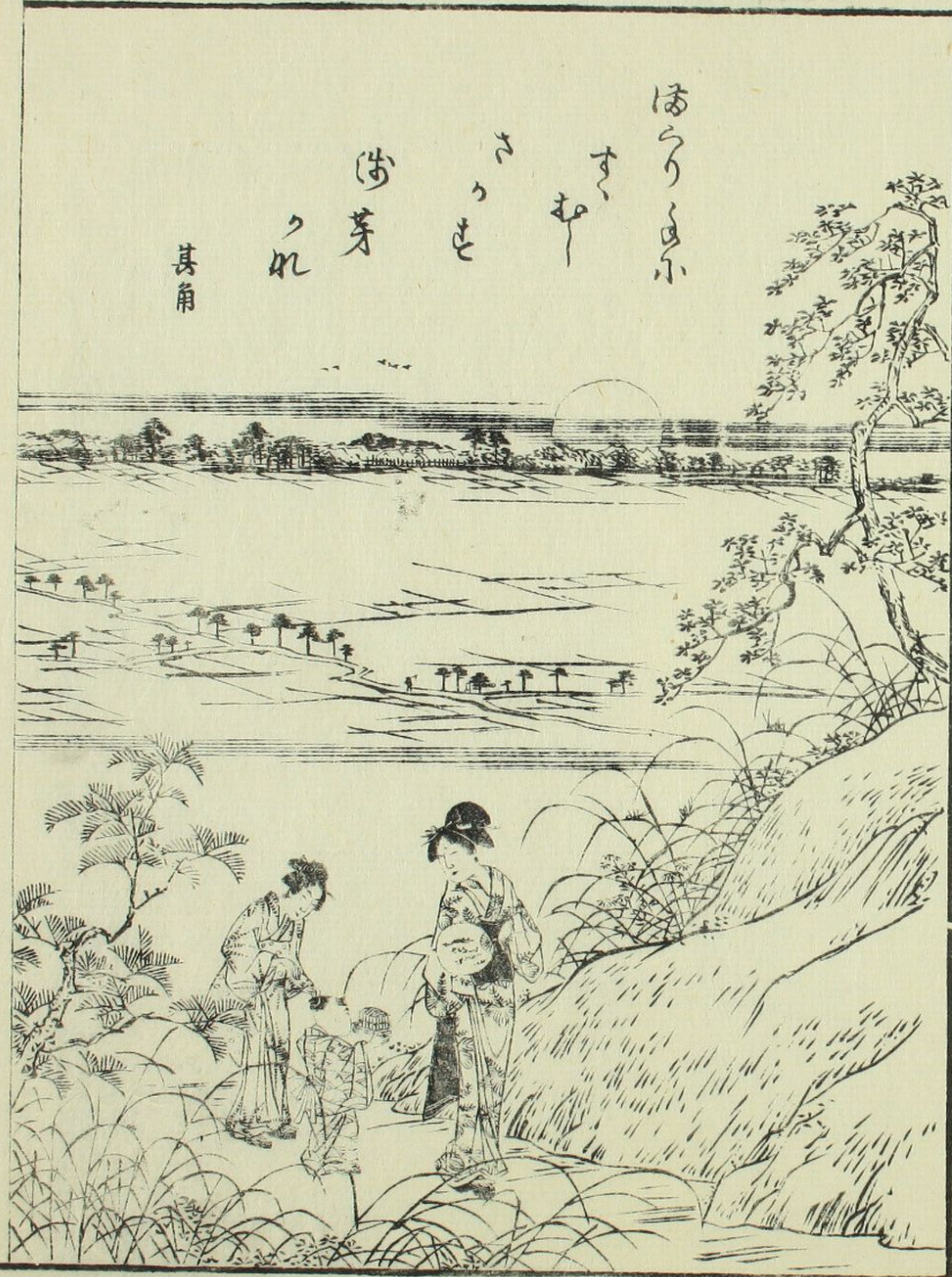
日光山



五
四
六

我專爲暴是不戰而自服也寬正中道灌入京王一人
采道灌所詠國風今御所傳稱其人英武而歌一
章也以褒揚之迄于今寺主僧上仲余屬河大古屋
知長四宮成煥圖樹石于丘與懸事石乎曰
昔何至斯里之及武人亦無忌其惠陽百姓於其平諸後
世也吾聞之羊叔子豈猶丘之思羊叔子乎不
想之所建廟立碑歲時享祀望其孫資始粟茅土
灌公者異於此碑國初時顯公又四世十今
之封食邑五萬石寔爲顯公又四世十今
以歲時朝東則春秋禘禘分隊勒戎馬於旗纛士
白羽若月赤羽如日壁司徒各慎其守燧者
發爾踊躍用兵乃皆延頸企踵以待候之舉燧者
焉爾於是乎君大夫慨然念爾祖聿脩厥德將慎
其四竟其守備訓有司以義施小民以惠而光昭
令名以示子孫無亦監於斯乎然知里人丘其址
焉寺主碑其五焉皆曰也夫然後知里人丘其址
三十番神堂 觀堂のちへあり昔道灌中平川に安置せし靈像よりて元眼日蓮上人
日暮里 新居み他とて永祿二年北条余限帳は遠山弥九郎に戸知行の中に屋中新造の
感應寺裏門のありより道灌山と界とん此迎寺院の庭中奇石と疊て

假山を設けに時草本の苑庭に常遊觀み佛小枕中二月の羊よりの酒
亭茶店の櫓儿不せく貴袂被とほとて春の日の氷を賣也も此里の
名めいあるものあらん
七年大明神社 因不延命院といふ日蓮宗の寺に安置す突山日長上人萬治
三年庚子正月十六日夢中み靈告と得て後勸請すとあり
或人云慶安元年三澤の馬甲斐の七面山に子日の洞春の朝に鱗一枚を感得と
依り當社を建す 巖命に因り延命院と号るとも
補陀山養福寺 觀王院と號す因不北の方みあり奉尊ハ三尊の弥陀佛突山ハ
本食義高上人あり 傳前の田満寺の条下み
觀音堂 西國坂東扶文百番のちんせん 奉尊如意輪觀音 佛工春日の作りて西國札不茅一番
十一面觀音 相か加藤倉校卒のちんせん 正觀音 慈覺大師の作りて秩父札不茅一番
柳此百觀世高ハ義高上人の建立れり上人初高野山の高臺院み住職
たより後彼寺を退去し當此に越さ百番の札取を摸さひまを
企川是奉土み至りかて死見女等の結縁の爲とあり依て此地なり



ほろりよ小

すわ

さつ

歩芽

くれ

其角

道権山穂虫

文月の末をさる中
 小してとりつさ
 名よーあ虫塚
 の辺を奇地とす
 河人吟客こい
 未して終夜その
 清音と孤懸す
 中あも憐児の言
 の勝てをい
 深霧ゆ旅娘の
 あつせぬる小
 金毘羅の振持
 くくくどらん
 ありあけの心と
 舟明のこいと
 杉とすも
 一頁と下
 いん



残も了此樹蔭より 眺望れは荒川の流まの白布を引りこく筑
 波黒髪いんげんの山やまの畫小似たり 豊島とよしまの村落そらの眼まなこ小ありて耕かき畑はたけ
 う川賤ちぢ葉はままも一いち至いた小入利根川こいりねがわの遠帆とほのぼ緑樹りよくのうけに見えおれし
 此れこゝ白鷺しらさぎの飛りこく此沈こゝの風かぜ画え中ちゆうにあるあり如ごとし
我人云く往昔此麓ハ豊島川小狭し入江と道灌の岩味あり一頃ハ赤穀共ありて運送
 の船よりこの松を同堂小せし月のまをほろくといふもあちち岩味とわの義なるあはれ見の人
 の河よりくはちとよの目的小す松のわ小洞心いそよとて道灌山の船つちま松と松し
 てもうに此所の松を同堂小せしを傳りて道灌松繁の松と唱ふとを
 道灌山みちくわん 一名を峰山みねやまともとて南みなみの新垣しんがきを隈さかいし小の平塚ひらつか小接せつす往むか
 右みぎ田道灌たみちくわん江戸味えどあじ小あり一頃出張でちやうの岩味いわあじとせし跡あとありとも
 又岡道観またおかみちくわん坊ぼうといへる者の茅宅かやたくの地ちちりとも云い傳つたふ
てん観坊と號ると告中感意寺の寢基ありと則此比藥草多く採藥の
 感意寺を長耀山と稱も此れ也なり
 葦常あしつね小こ小来れし珠たま小秋あきの頃ころの松虫まつむし鈴虫すずむし露つゆ小ありて清音せいおん
 をあはす依よて雅客みやく幽人ゆうじんと小来り風かぜ詠えいし月つき小歌うたふて其言そのことば
 を愛あいせり

